

## 第9章 オーストラリア

### －中国との貿易の急速な拡大－

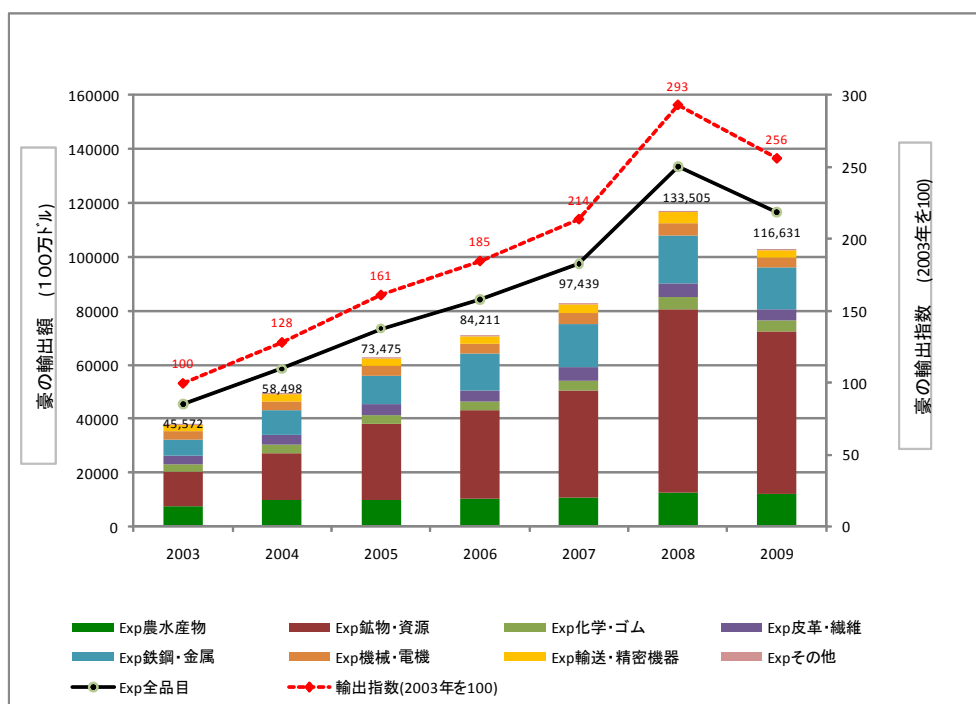
馬場範雪

#### 1. 貿易の概要

##### (1) アジア太平洋諸国との輸出入

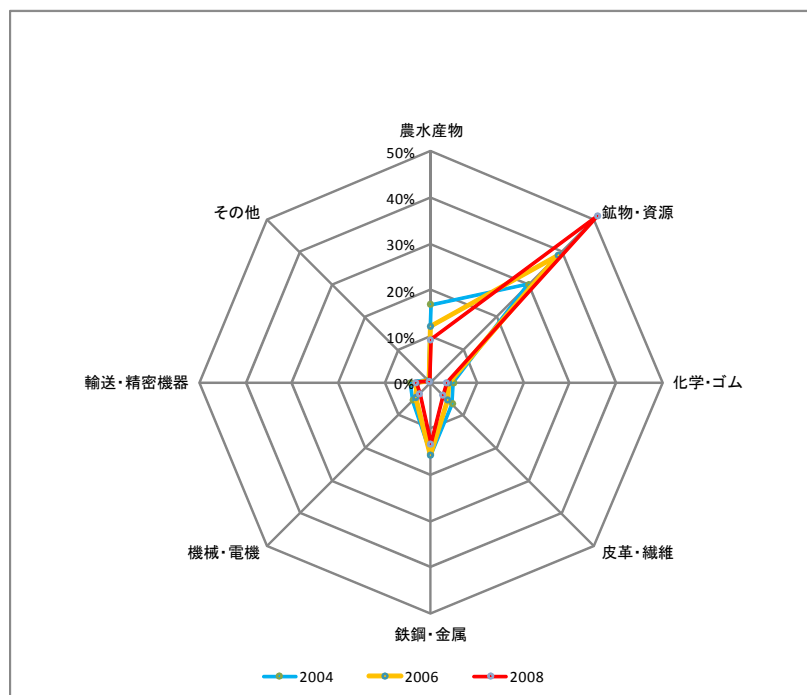
###### 1) オーストラリアからアジア太平洋諸国への輸出(全品目)

オーストラリアからの対アジア太平洋諸国への輸出は、第 9-1 図に示すように、2008 年/2003 年比で約 3 倍の 1,335 億ドルに急増している。なお、2009 年は、2008 年に比して 13%減となっているが、それでもなお、輸出指数(2003 年を 100)を見ると、2007 年の 214 より、2009 年は 40 ポイント高い 256 と輸出の増加傾向が堅調であると言える。



第 9-1 図 オーストラリアからの輸出額推移(全品目)

オーストラリアからの輸出品目の特徴は、第 9-2 図に示すように、主に石炭や鉄鉱石等の鉱物・資源、小麦等の農水産物に特化した輸出構造となっており、2004 年から 2008 年までの品目別の構成比率(輸出額ベース)を見ると、特に鉱物・資源分野の輸出が伸びてきている。



第 9-2 図 オーストラリアの品目別輸出額構成比の推移

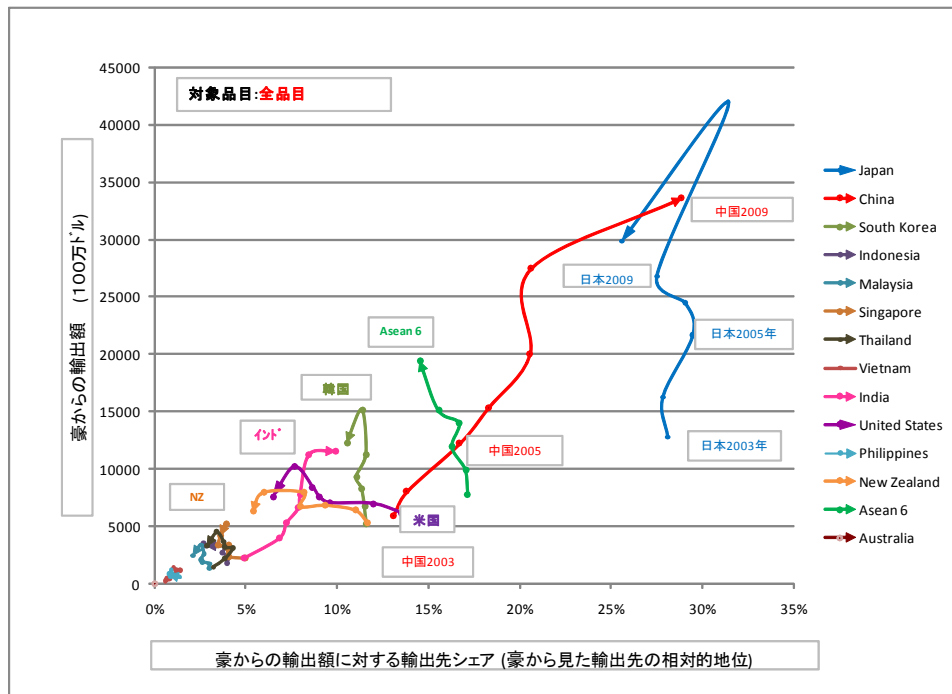
オーストラリアからの輸出先の特徴であるが、第 9-3 図に示すように、従来からの主要貿易国である日本・韓国・ASEAN との貿易額も数倍に伸びているものの、近年、中国との貿易の著しい拡大により、オーストラリアの輸出貿易先の構造が大きく変化してきている。2002 年当時は、オーストラリアの貿易先は、日本、ASEAN、米国、韓国が主流であったが、中国(図中赤線)が、オーストラリアの貿易先として急速に台頭してきており、2009 年には、日本を抜き、貿易額・地位(オーストラリアからの輸出額全体に占める中国への輸出額のシェア)とも第 1 位に転じている。

また、インドとの関係においては、中国ほどの貿易額ではないが、急速にオーストラリアとの貿易が活発化しており、韓国との貿易に匹敵するほどの勢いとなっている。

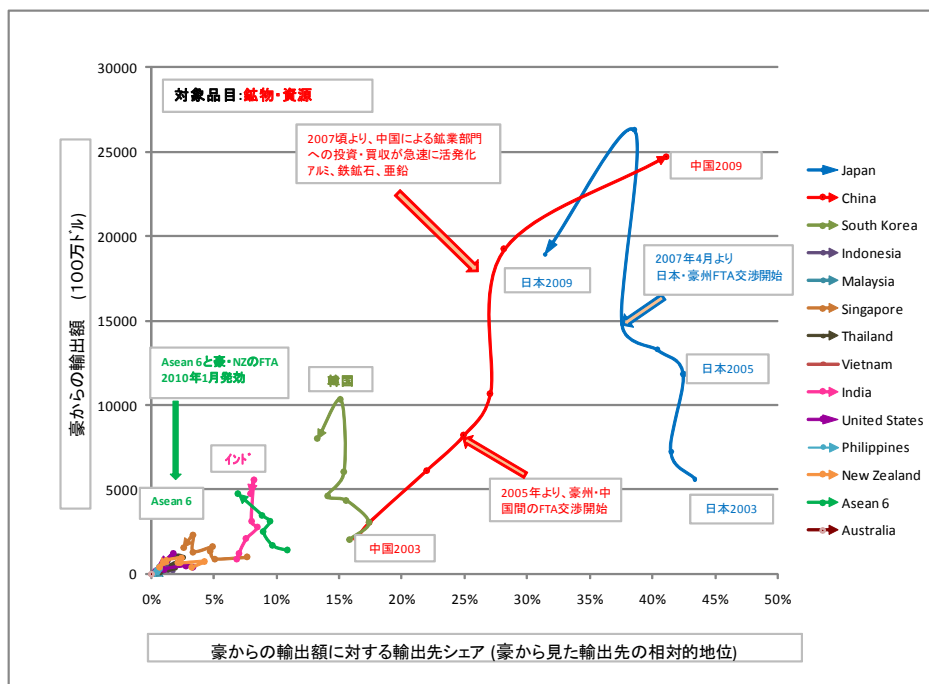
一方、米国は、オーストラリアからの輸出額の動向に急変動はないものの、中国の台頭により、急速にその地位が低下してきている。

日本はオーストラリアにとって主要貿易国としての重要性は継続されるものと考えられるが、中国・インドとの貿易の急進性とオーストラリアからの輸出能力(生産の限界性)の如何によっては、日本とオーストラリアの貿易が、近い将来、大幅に圧迫される危険性も否定できない。第 9-4 図の鉱物・資源分野の輸出額と輸出先のシェアを見ると、全品目ベ

ースの動向と非常に酷似した動きを示し、中国への鉱物・資源輸出急増が全品目輸出構造の主要な変動要因となっていることが観察される。このことは、近い将来、オーストラリアにおける鉱物資源の調達競争で日本が中国に買い負けるなどの事態も念頭におく必要が  
あろう。



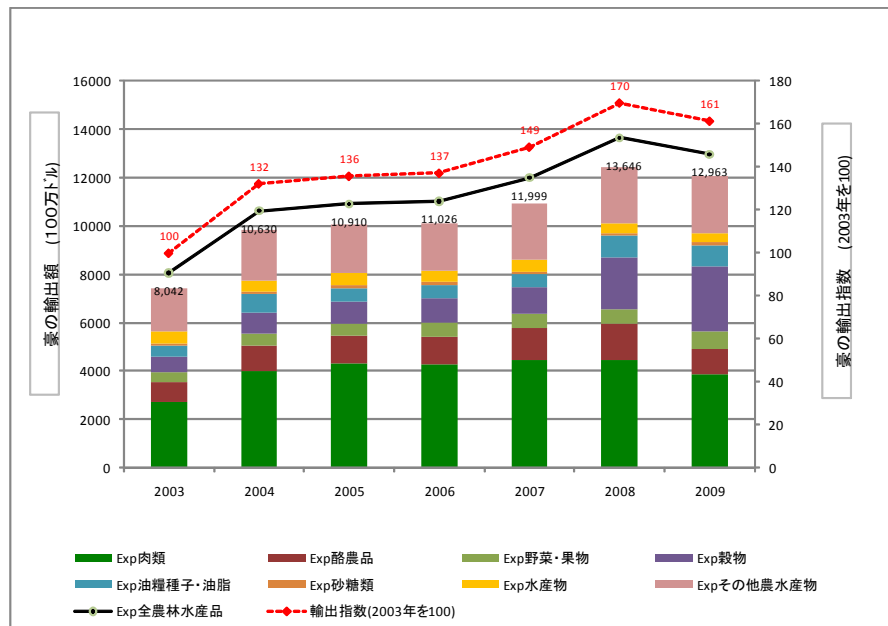
第 9-3 図 オーストラリアからの輸出(全品目)に係る輸出先別の輸出額及び輸出額シェア(相対的地位)の推移



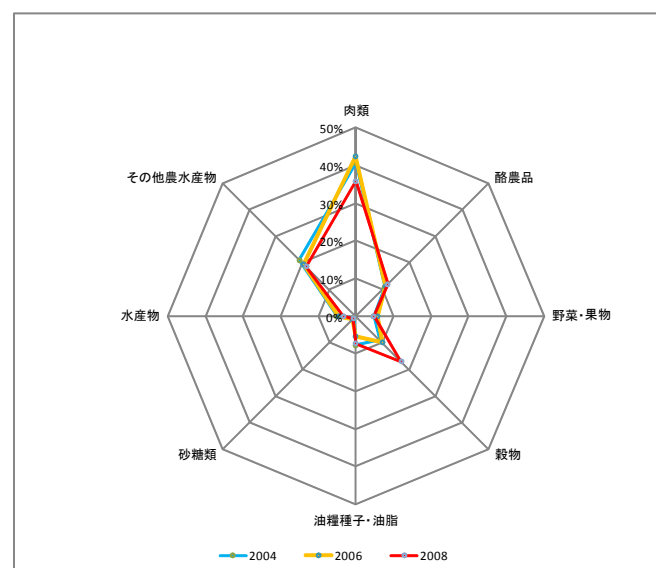
第 9-4 図 鉱物・資源分野における輸出先別の輸出額及び輸出額シェアの推移

## 2) オーストラリアからアジア太平洋諸国への輸出(農林水産物)

次に、オーストラリアの主力輸出品目である農林水産物の輸出動向は、第 9-5 図に示すように、オーストラリアからの対アジア太平洋諸国への輸出は、第 9-1 図に示すように、2008 年/2003 年比で約 1.7 倍の 136 億ドルに増加している。なお、2009 年は、2008 年に比して 9 ポイント減となっていて国際金融危機の影響が見られるが、鉱物・資源等の他品目輸出に比してその影響度は比較的小さかったと考えられる。



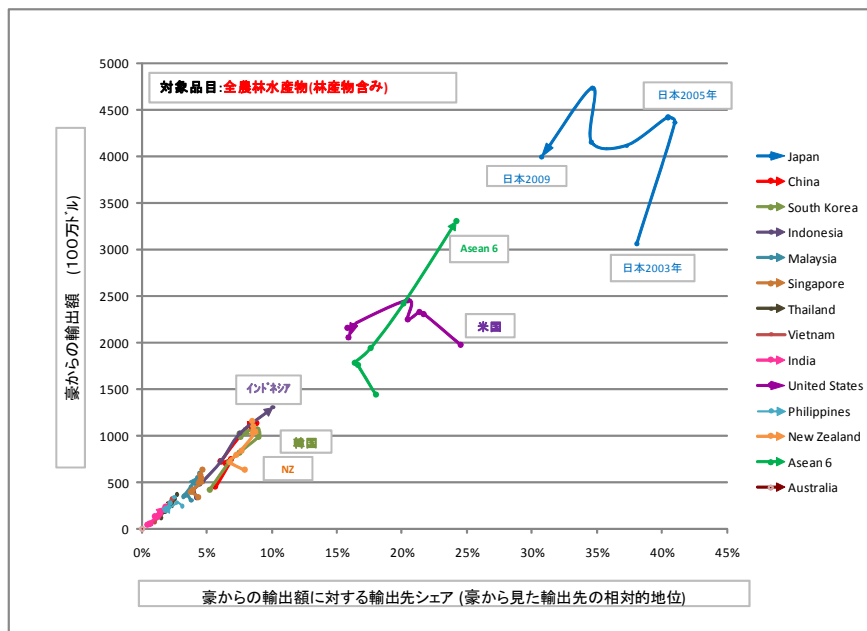
第 9-5 図 オーストラリアからの輸出額推移(農林水産物)



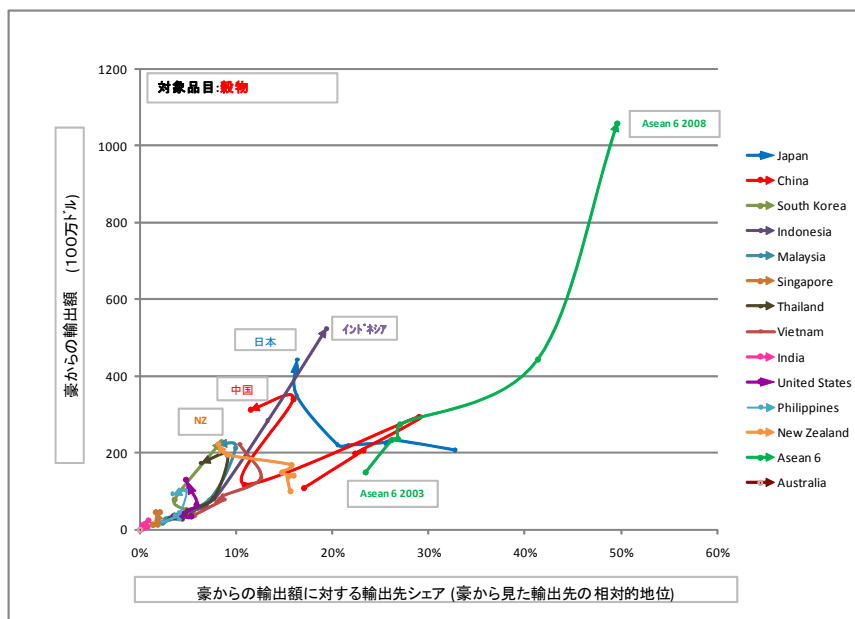
第 9-6 図 オーストラリアの農水産物品目別構成比の推移

オーストラリアからの農水産物輸出品目の特徴は、第 9-6 図に示すように、主にオーギービーフに代表されるように肉類(構成比率 40%台)、ワイン等その他農産物(構成比率 20%台)、小麦等の穀物やチーズ等酪農品(それぞれ 10%台)に特化した輸出構造となっている。

経年動向の特徴として、肉類の輸出額構成比率が 2004 年 40.6%から 2008 年 35.8%へと 5 ポイント減少し、替わりに穀類が 2004 年 10.9%から 2008 年 17.2%へと 7 ポイント増加している傾向が特徴的である。



第 9-7 図 オーストラリアからの農林水産物輸出に係る輸出先の輸出額及び輸出額シェアの推移



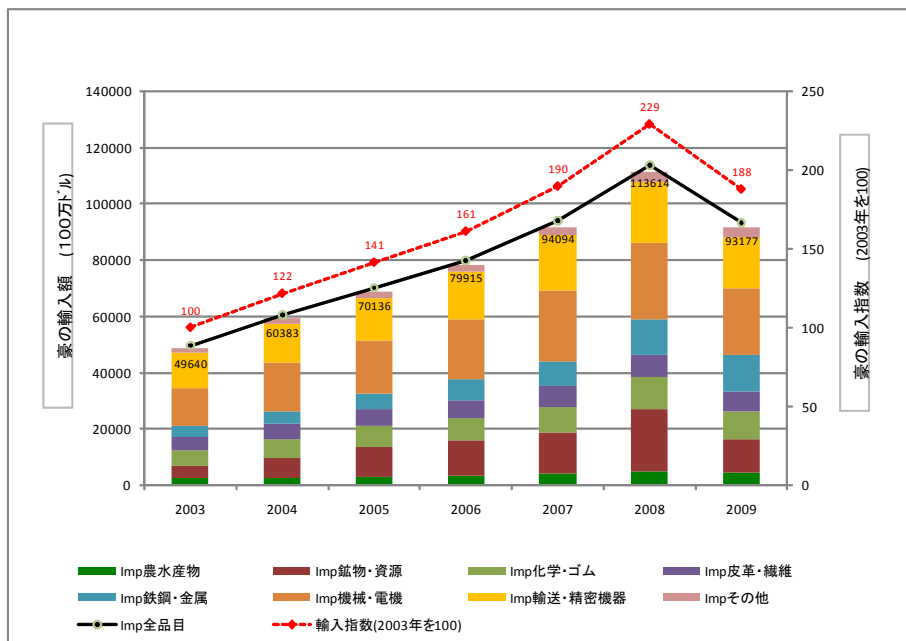
第 9-8 図 オーストラリアからの穀類輸出に係る輸出先の輸出額及び輸出額シェアの推移

オーストラリアからの農林水産物輸出先の動向であるが、第 9-7 図に示すように、主な輸出先は、日本、ASEAN、米国である。日本への輸出が 40 億ドル台・40%シェアと最も高い水準を維持しているものの、第 9-8 図に示すように ASEAN への穀物輸出(特にインドネシアへの輸出)が急増しており、2009 年には日本への輸出先シェアが 10%近く低下するなど輸出先としての日本の地位は低下してきている。また、米国も 20 億ドル台を維持しているが、2008 年には ASEAN と地位が逆転するなど、この分野でもオーストラリアのアジアシフトが窺える。

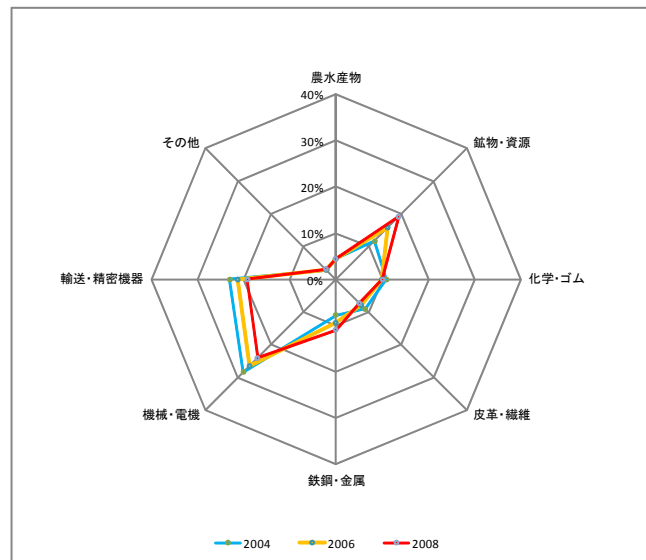
### 3) アジア太平洋諸国からオーストラリアの輸入(全品目)

アジア太平洋諸国からオーストラリアの輸入額は、第 9-9 図に示すように、2008 年/2003 年比で 2 倍以上の 1,136 億ドルに急増しているが、オーストラリアからの輸出が同比で 3 倍近くの 1,335 億ドルに伸びていること(第 9-1 図)から、オーストラリアの対アジア太平洋諸国との貿易構造は輸出超過傾向と言える。なお、2009 年は、国際金融危機の影響等により 2008 年に比して 18%減となっているが、輸入指数(2003 年を 100)の推移を見ると、2009 年は 188 と 2007 年並み(190)となっており、輸入も堅調であると窺える。

アジア太平洋諸国からオーストラリアへ輸入される品目の特徴は、第 9-10 図に示すように、機械・電機分野、輸送・精密機械分野(それぞれ品目別輸入額構成比 30%台)、鉱物・資源(10%台)に特化した輸入構造となっているが、2004 年から 2008 年までの品目別の輸入額構成比率の推移を見ると、機械・電機分野や輸送・精密機械分野が 4 ポイント程度減少する一方、鉱物・資源分野の輸入が 8 ポイント増加し構成比 20%台近くまで伸びてきている。なお、化学・ゴム等の分野は大きな変化はない。



第 9-9 図 アジア太平洋諸国からオーストラリアへの輸入額推移(全品目)



第 9-10 図 オーストラリアの品目別輸入額構成比の推移

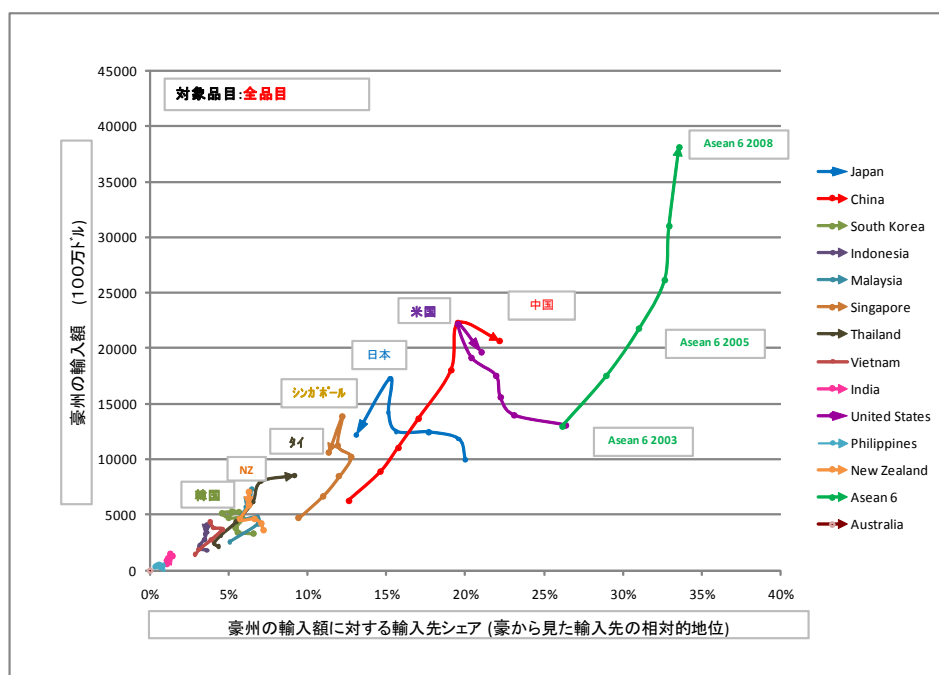
オーストラリアの輸入先の特徴であるが、第 9-11 図に示すように、ASEAN 及び中国からの輸入が著しく拡大している。2003 年の時点で、ASEAN からの輸入は、輸入額・輸入シェアとも輸入先第 1 位の米国と同水準(輸入額:約 130 億ドル, 輸入シェア:約 25%)であったが、2008 年には約 3 倍の 380 億ドル, 輸入シェアも 35%と 10 ポイント増加し、オーストラリアと ASEAN からの貿易関係(特にシンガポール, タイ等)が急速に深まってきている。更に、中国からの輸入は 2008/2003 年比で 3.6 倍の 222 億ドルに達し、第 1 位だった米国を抜く勢いとなっている。日本からの輸入額は増加しているもののその伸びは鈍く、輸入額シェアも同年比で 5 ポイント後退し、中国にその地位を抜かれている。

オーストラリアへの輸入額シェアの大きい機械・電機分野(第 9-12 図)と、輸入拡大傾向にある鉱物・資源分野(第 9-13 図)について輸入先別の輸入動向を見ると、機械・電機分野では、2008/2003 年比で ASEAN や米国からの輸入額も 2 倍近く増加しているのに加え、中国からの輸入が 6.6 倍の 78 億ドルに達するなど著しく輸入が拡大している。一方で、この分野での日本からの輸入はそれほど輸入額が増加しておらず、その結果、日本の輸入地位が大きく後退している。

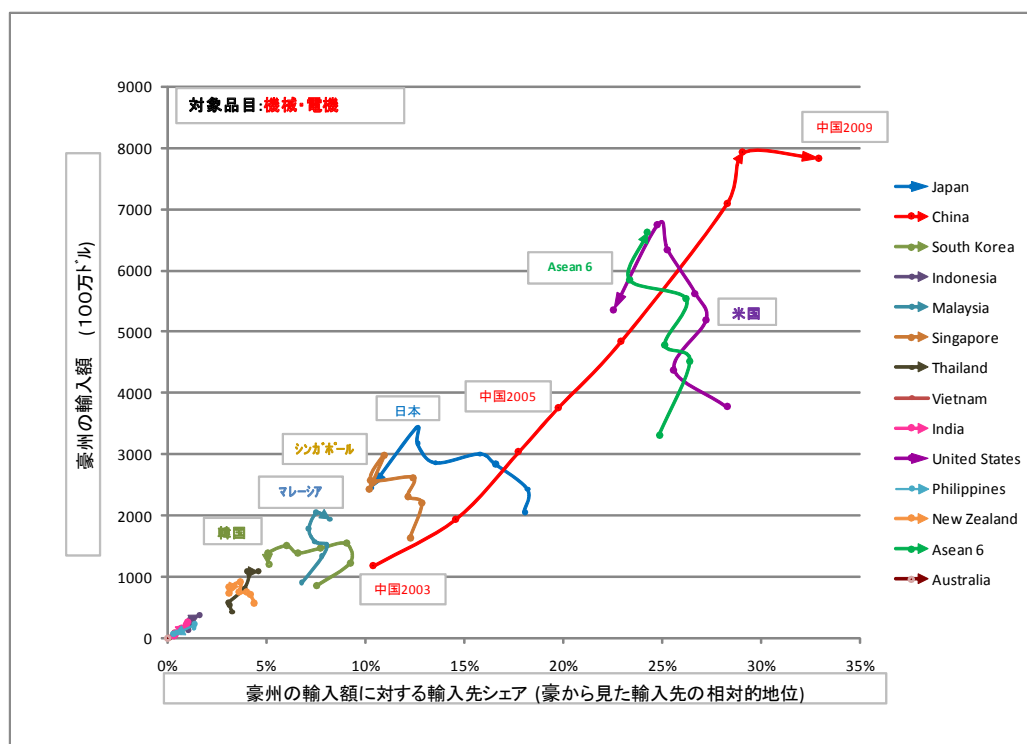
また、輸入拡大傾向にある鉱物・資源分野(第 9-13 図)について輸入先別の輸入動向を見ると、ASEAN からの輸入シェアが 85%程度と太宗を占め、輸入額も 2008/2003 年比で約 4 倍の 164 億ドルに達しているが、国別に見るとシンガポール(輸入シェア 30%台)が最も多く、続いてベトナム(20%台), マレーシア(10%台)の順となっている。

#### 4) アジア太平洋諸国からオーストラリアの輸入(農林水産物)

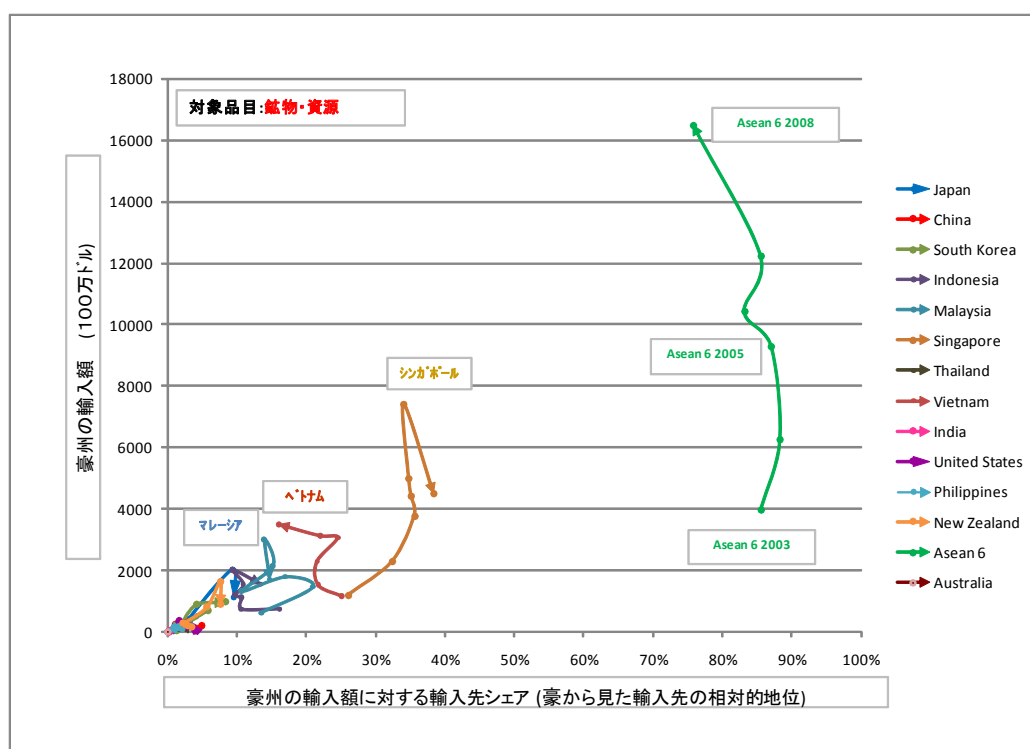
アジア太平洋諸国からオーストラリアへの農林水産物輸入額は、第 9-14 図に示すように、2008 年/2003 年比で 2 倍の 58 億ドルにしているが、2008 年のオーストラリアの輸入総額(1,136 億ドル)に占める農林水産物年輸入額シェアは、わずか 5%とその地位は低い。



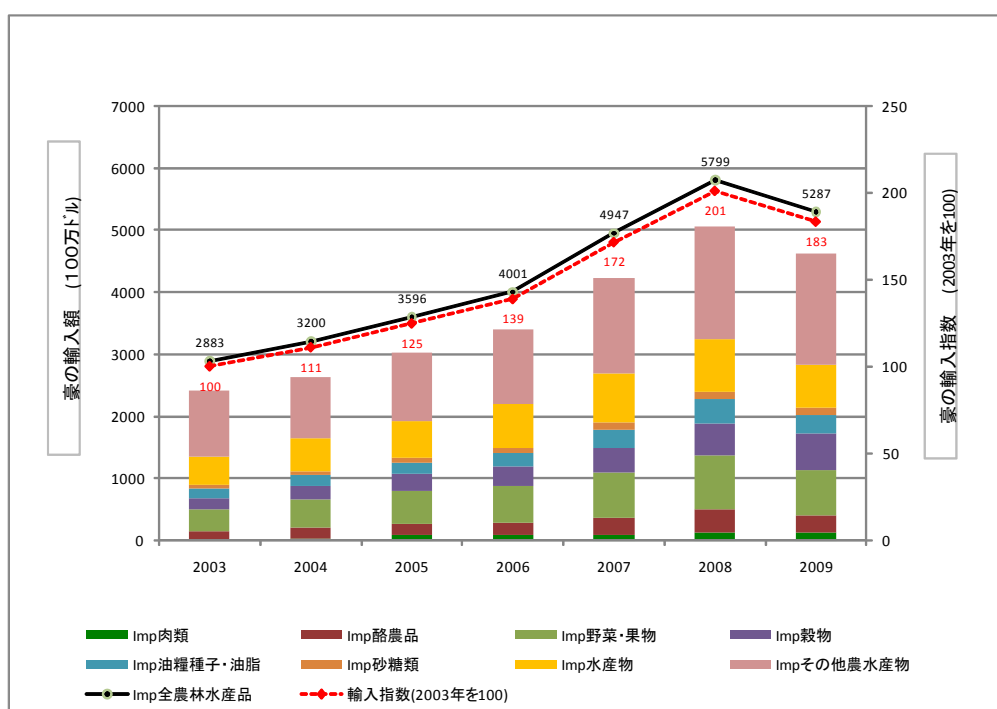
第 9-11 図 オーストラリアの輸入(全品目)に係る輸入先別の輸入額及び輸入額シェア(相対的地位)の推移



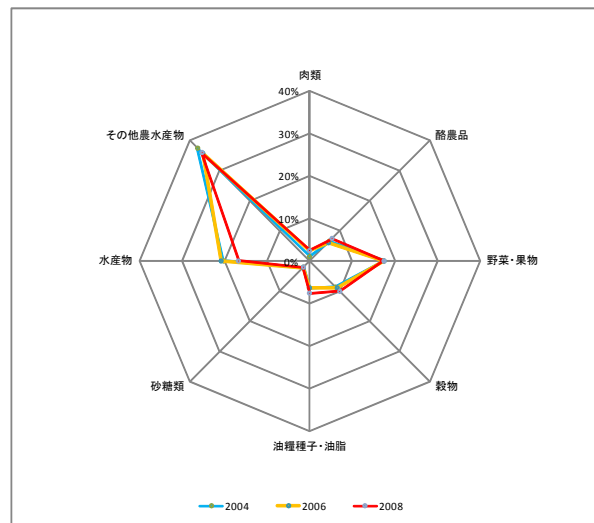
第 9-12 図 機械・電機分野に係る輸入先別の輸入額及び輸入額シェア(相対的地位)



第 9-13 図 鉱物・資源分野に係る輸入先別の輸入額及び輸入額シェア(相対的地位)



第 9-14 図 オーストラリアの農林水産物輸入額の推移

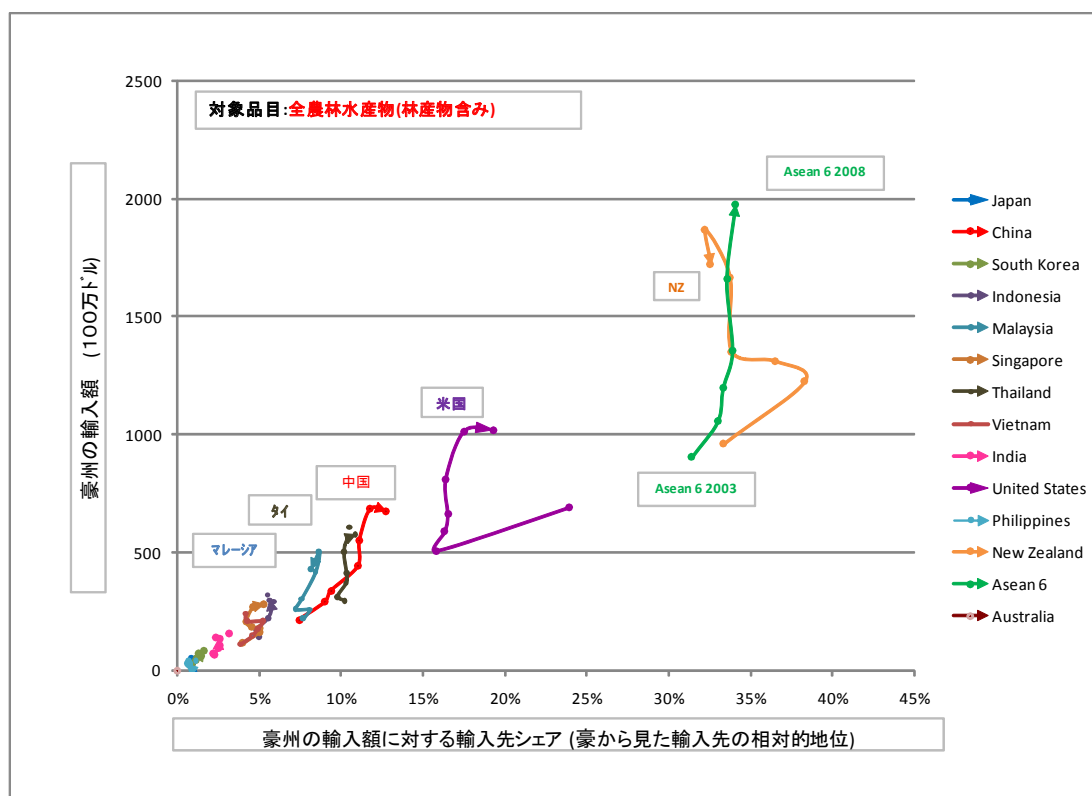


第 9-15 図 農林水産物別輸入額構成比推移

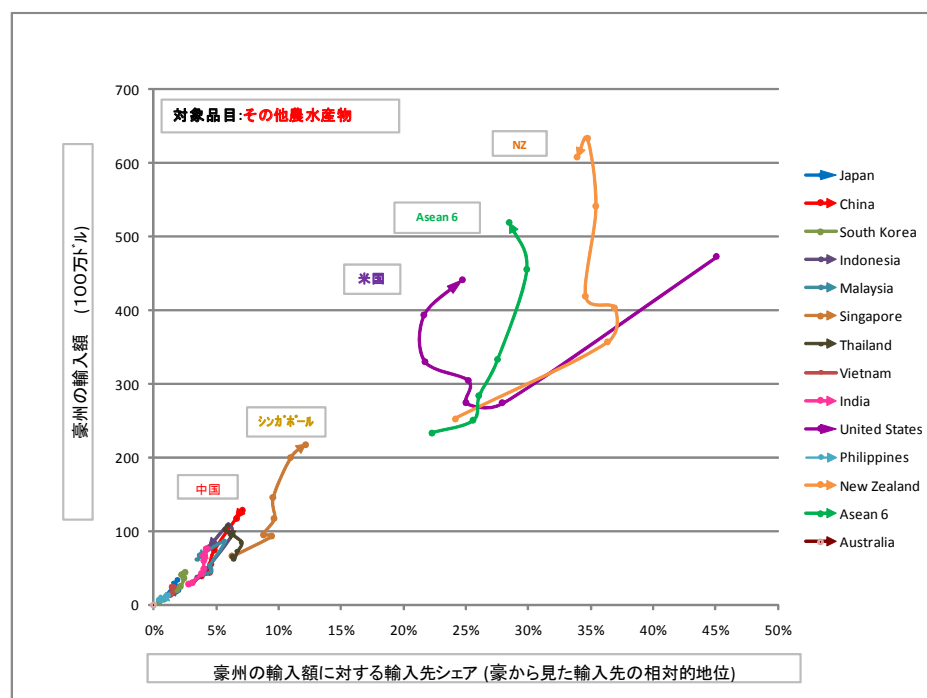
アジア太平洋諸国からオーストラリアへ輸入される農林水産物品目の特徴は、第 9-15 図に示すように、各種調整品、コーヒー・茶、アルコール類等のその他農水産物(輸入額構成比 30%強)、水産物(20%台)、野菜・果物(10%台)に特化した輸入構造となっているが、2004 年から 2008 年までの品目別の輸入額構成比率の推移を見ると、水産物が 4 ポイント程度減少している。なお、他の農水産物については、大きな変動はない。

アジア太平洋諸国からオーストラリアへ輸入される農林水産物の輸入先の特徴であるが、第 9-16 図に示すように、各国とも輸入額は 2008/2003 年比で約 2 倍の増加が見られるが、主な輸入先の地位は、ASEAN とニュージーランドが第 1 位・2 位の地位(それぞれ輸入額シェアは 30～35%台)、3 位の米国の順が継続しているなど、2003 年から 2008 年にかけての大きな地位変動は見られなく比較的安定した輸入構造となっている。ただし、中国からの輸入シェアは 2003 年から 2008 年にかけて 4 ポイント増加してきており、2008 年では輸入額が第 4 位に達するなど、中国からの輸入が急増してきている。その他農水産物については、第 9-17 図に示すように、各国からの輸入が全体で 1.8 倍近く増加してきている。また、農林水産物の全体輸入構造と同様、ASEAN(特にシンガポールでの加工又は中継)、ニュージーランド、米国からの輸入が太宗を占める構造となっているが、米国からの輸入が 2003 年から 2005 年にかけては約 50%激減した後 2006 年から再び上昇、2009 年には 2003 年の水準まで回復している。

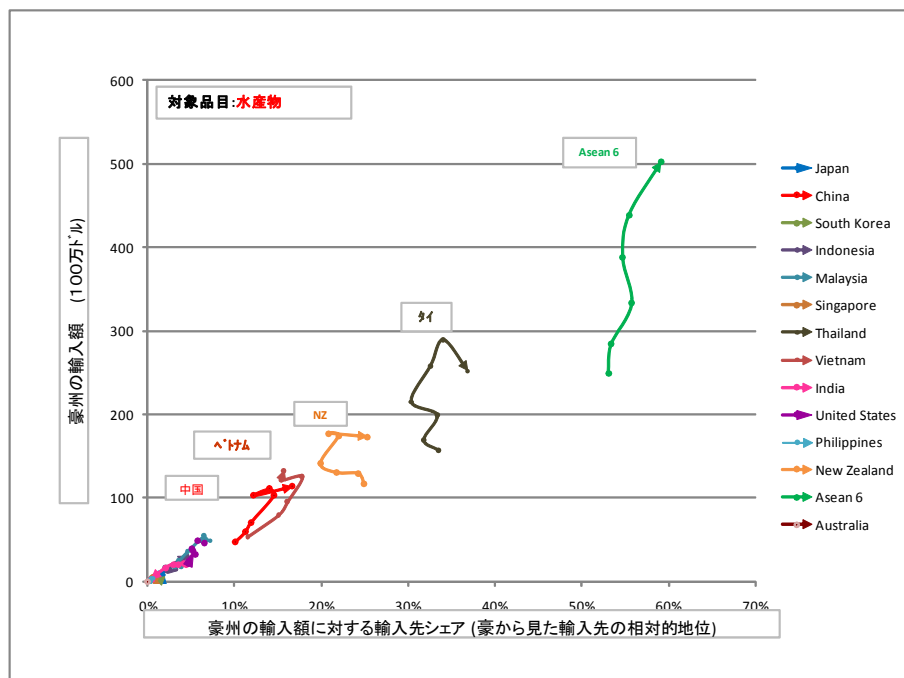
次に、水産物品目では、第 9-18 図に示すように、各国からの輸入額は 2008/2003 年比で約 2 倍の増加が見られるが、その輸入先の地位は、ASEAN(特にタイ、ベトナム)、ニュージーランドからの輸入額シェアの経年変化はあまり見られないなど比較的安定した水産物の輸入構造となっている。なお、中国からの水産物輸入額は比較的小さいものの、2009/2003 年比でシェアが 5 ポイント増加してきている。



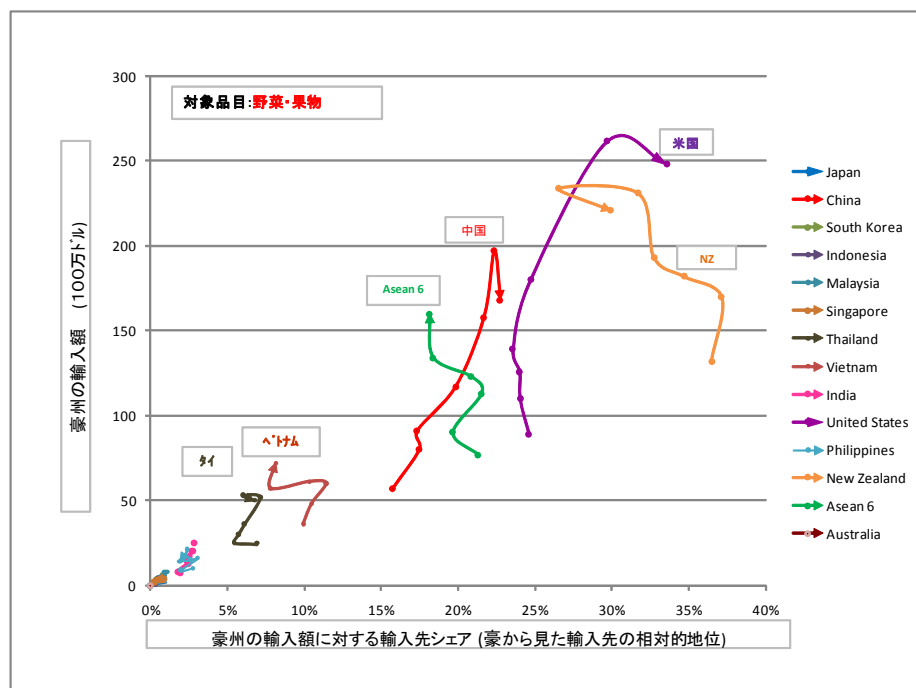
第 9-16 図 農林水産物分野に係る輸入先別の輸入額及び輸入額シェア(相対的地位)



第 9-17 図 その他農水産物品目に係る輸入先別の輸入額及び輸入額シェア(相対的地位)



第 9-18 図 水産物品目に係る輸入先別の輸入額及び輸入額シェア(相対的地位)



第 9-19 図 野菜・果物品目に係る輸入先別の輸入額及び輸入額シェア(相対的地位)

野菜・果物品目については、第 9-19 図に示すように、各国からの輸入が全体で 2.5 倍近く増加してきているが、2009 年には米国からの輸入が約 3 倍近く急増して第 1 位となり、2003 年には輸入先第 1 位のシェアを確保していたニュージーランドからの輸入は第 2 位となるなど地位が逆転している。また、中国からの輸入も 2008/2003 年比で輸入額が 3.5

倍と急増しており、輸入先シェアも7ポイント上昇している。更に、ASEANはベトナム、タイからの輸入(熱帯果物・切り花等)が多く、同年比で2.4倍と増加してきているが、2008年には中国と輸入先地位が逆転し第4位となっている。

## (2) オーストラリアの競争力指数

オーストラリアとアジア太平洋諸国との間の競争力指数を2003年と2008年について計算したところ、第9-20図に示すように、全品目の総貿易では、2003年では-0.04、2008年では0.08を示すなど、ほぼ輸出入のバランスが均衡しているとともに、同年差で0.12ポイントの上昇があることからして総体としてはオーストラリアの対アジア太平洋諸国への競争力は増していると推測される。

また、個々の分野の内訳を見ると、アジア太平洋諸国に対してオーストラリアが有する競争力が高い品目(＋の値)は、農水産物、鉱物・資源、鉄鋼・金属分野であるが、2003年より2008年の競争力指数が増加している分野は鉱物・資源のみであり、残りの農水産物、鉄鋼・金属分野は2003年の指数より2008年の方が若干低下してきている。鉱物・資源分野が堅調な伸びを示している背景として、1－(1)で述べたように、中国への鉄鋼石・石炭等の輸出がここ数年で急激に伸びてきているためと推測される。

農水産物分野では、2008/2003年比で輸出が1.7倍の増加に対して、輸入は2倍の増加となるなど、輸入の方の伸び率が輸出よりも大きいことが要因と考えられるとともに、水産物、野菜・果実、その他農水産物の輸入額の伸びが顕著な傾向(第9-17,9-18,9-19図参照)からして、オーストラリア国民の食生活の変化・多様性が進んできており、穀物等農水産物輸出大国の側面を持つ一方で、多様な食品の消費大国へ転換しつつある可能性が示唆される。

また、鉄鋼・金属分野では、2008/2003年比で輸出が2.8倍の増加(ASEAN・インドへの輸出が急増)に対して、輸入は3.2倍の増加(タイ、中国からの輸入が急増)となるなど、輸入の方の伸び率が輸出よりも大きいためと推測される。

一方で、アジア太平洋諸国に対してオーストラリアが有する競争力が低い品目(－の値)は、化学・ゴム、皮革・繊維、機械・電機、輸送・精密機器、その他品目の分野であるが、特に競争力指数の低下が顕著な分野は、その他の分野であり、2008/2003年差で-0.19の大幅な低下が見られ、この分野での競争力が急速に失速している。

そこで、「その他」分野の輸出入先との貿易動向を見てみると、第9-21図に示すように、オーストラリアからの輸出は、ニュージーランドへの輸出は堅調であるものの、米国への輸出が2006年以降急激に低下してきている。また、第9-22図に示すように、中国からの輸入額が2008/2003年比で4倍になるなど著しく拡大してきていることからして、米国への輸出激減と中国からの輸入急増の2つの要因が、「その他」分野でのオーストラリアの競争力を大幅に低下させていると推察される。

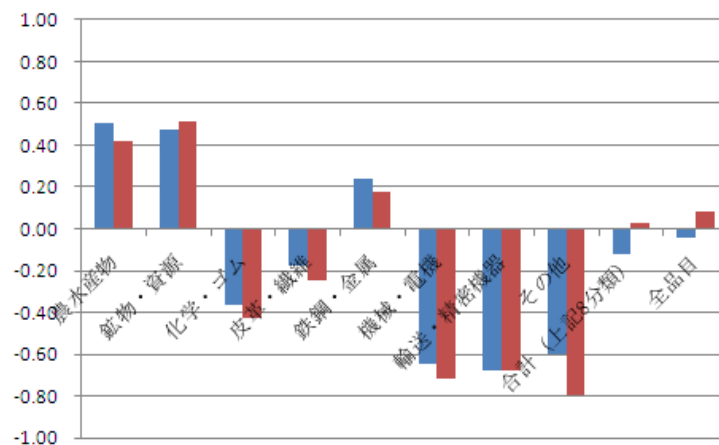
なお、この分析における「その他」分野とは、HS93類(武器類)、HS94類(家具・家財

等), H95 類(玩具等), H96 類(雑品), H97 類(美術収集品等)の総計としているが, 一般の民間企業貿易になじみやすい HS94~H96 類が主な品目と考えられる。

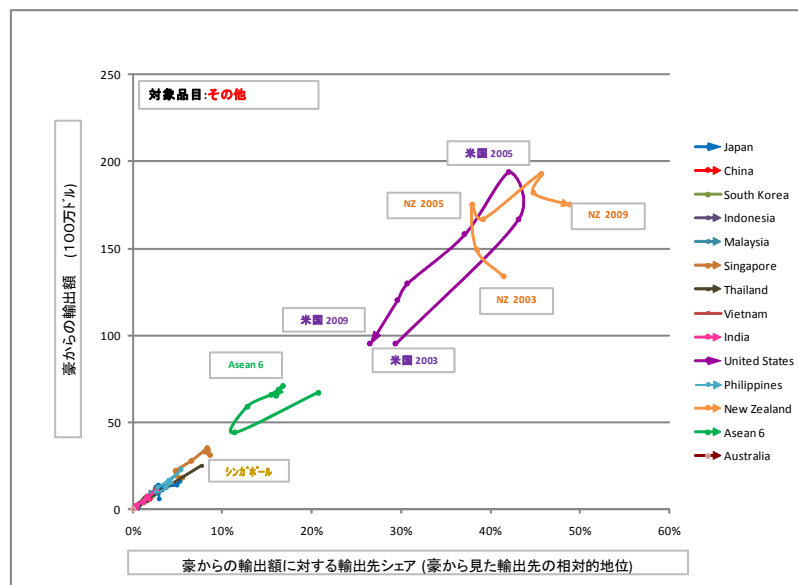
第 9-9-1 表 オーストラリアとアジア太平洋諸国との輸出入の比較

単位:100万ドル

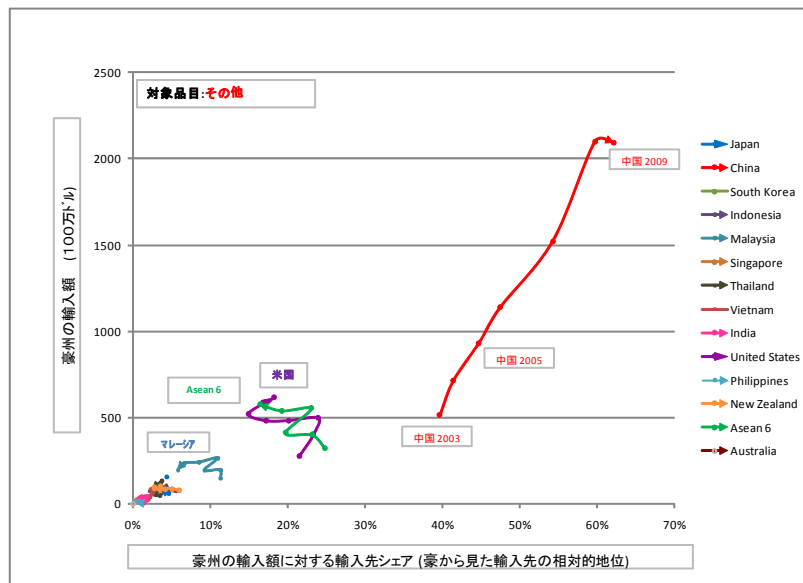
| 国名・品目     | 貿易額 2003年 |        |       | 貿易額 2008年 |         |       | 競争力指数の<br>2008/2003差 |
|-----------|-----------|--------|-------|-----------|---------|-------|----------------------|
|           | 輸出合計      | 輸入合計   | 競争力指数 | 輸出合計      | 輸入合計    | 競争力指数 |                      |
| Australia | 7,445     | 2,446  | 0.51  | 12,485    | 5,091   | 0.42  | -0.08                |
| 農水産物      | 12,931    | 4,656  | 0.47  | 68,248    | 21,748  | 0.52  | 0.05                 |
| 鉱物・資源     | 2,560     | 5,456  | -0.36 | 4,595     | 11,410  | -0.43 | -0.06                |
| 化学・ゴム     | 3,194     | 4,568  | -0.18 | 4,929     | 8,189   | -0.25 | -0.07                |
| 皮革・繊維     | 6,301     | 3,864  | 0.24  | 17,635    | 12,395  | 0.17  | -0.07                |
| 鉄鋼・金属     | 2,874     | 13,357 | -0.65 | 4,513     | 27,240  | -0.72 | -0.07                |
| 機械・電機     | 2,489     | 12,904 | -0.68 | 4,165     | 21,811  | -0.68 | 0.00                 |
| 輸送・精密機器   | 323       | 1,294  | -0.60 | 406       | 3,514   | -0.79 | -0.19                |
| その他       | 38,117    | 48,545 | -0.12 | 116,976   | 111,398 | 0.02  | 0.14                 |
| 合計(上記8分類) | 45,572    | 49,640 | -0.04 | 133,505   | 113,614 | 0.08  | 0.12                 |
| 全品目       |           |        |       |           |         |       |                      |



第 9-20 図 オーストラリアの貿易収支と競争力指数(2003 年(青)と 2008 年(赤))



第 9-21 図 その他品目に係る輸出先別の輸出額及び輸出額シェア(相対的地位)



第 9-22 図 その他品目に係る輸入先別の輸入額及び輸入額シェア（相対的地位）

## 2. オーストラリアとアジア太平洋諸国との 2 国間貿易

オーストラリアと対アジア太平洋諸国との 2 国間貿易については、貿易額の多い日本、中国、韓国、米国、ニュージーランド、インド、ASEAN6 カ国について整理する。なお、ASEAN6 カ国については一つの貿易圏とみなして整理するが、ASEAN の個別の国とオーストラリア間において品目別に見て何らかの貿易特性が認められる場合は、それについても追記する。

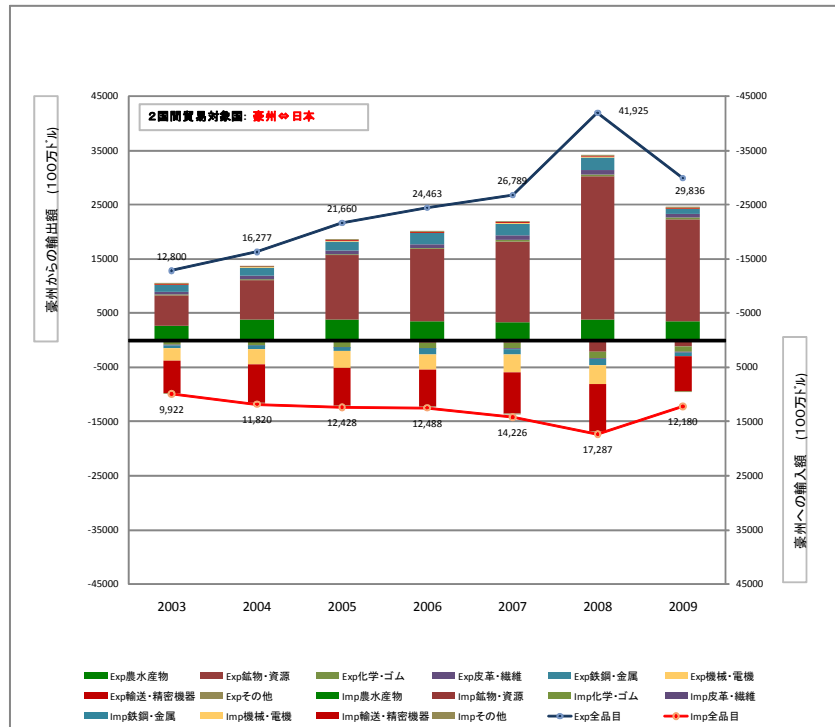
### （1）オーストラリア-日本

#### 1) 全品目の貿易動向

オーストラリアから日本への輸出総額は、第 9-23 図(グラフ上の上半分に図示する青線と幅太の縦棒)に示すように、2008/2003 年比で 3.3 倍の 419 億ドルに達している。なお、2009 年は国際金融危機の煽りで対前年比 3 割減の 298 億ドルとなったが、2007 年並みの水準を維持している。2008 年の主な輸出品目の輸出額及び輸出額シェアは、鉱物・資源分野が 263 億ドル(62.8%)、農林水産物分野が 38 億ドル(9.2%)、鉄鋼・金属分野が 26 億ドル(5.4%)と、この 3 分野で輸出総額の 77%を占め輸出構造となっている。

日本からの輸入総額は、第 9-23 図(グラフ下半分に図示する赤線・幅細の縦棒)に示すように、2008/2003 年比で 1.7 倍の 173 億ドルに増加しているが、日本への輸出総額のわずか 4 割しかなく、オーストラリアから日本への輸出超過が著しく大きい両国間の貿易構造となっている。2008 年における主な品目別の輸入額及びそのシェアは、輸送・精密機械分野が 87 億ドル(50.2%)、機械・電気分野が 32 億ドル(19.9%)、鉱物・資源分野 20 億ドル

(11.8%), 鉄鋼・金属 12 億ドル(7.2%)と、この 4 分野で輸出総額の 89%を占める輸入構造となっている。なお、鉱物・資源分野の輸入は、2008 年に突如現れ、2009 年には 11 億ドルと半減するなど突発的現象がみられる。



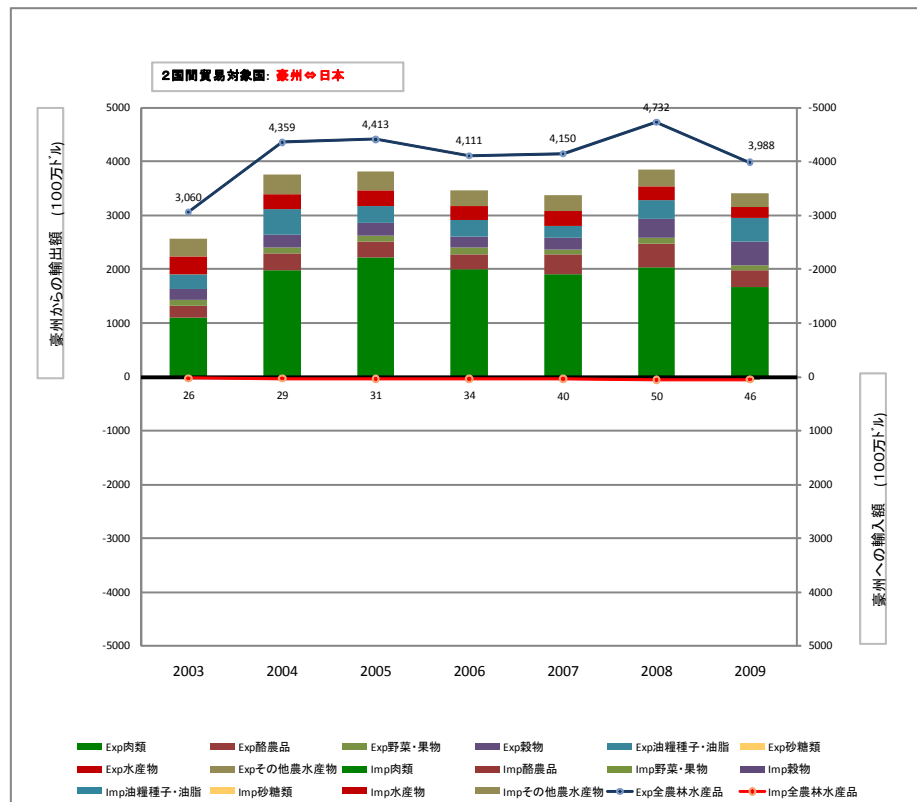
第 9-23 図 オーストラリア-日本における輸出入額の推移(全品目)

## 2) 農林水産物の貿易動向

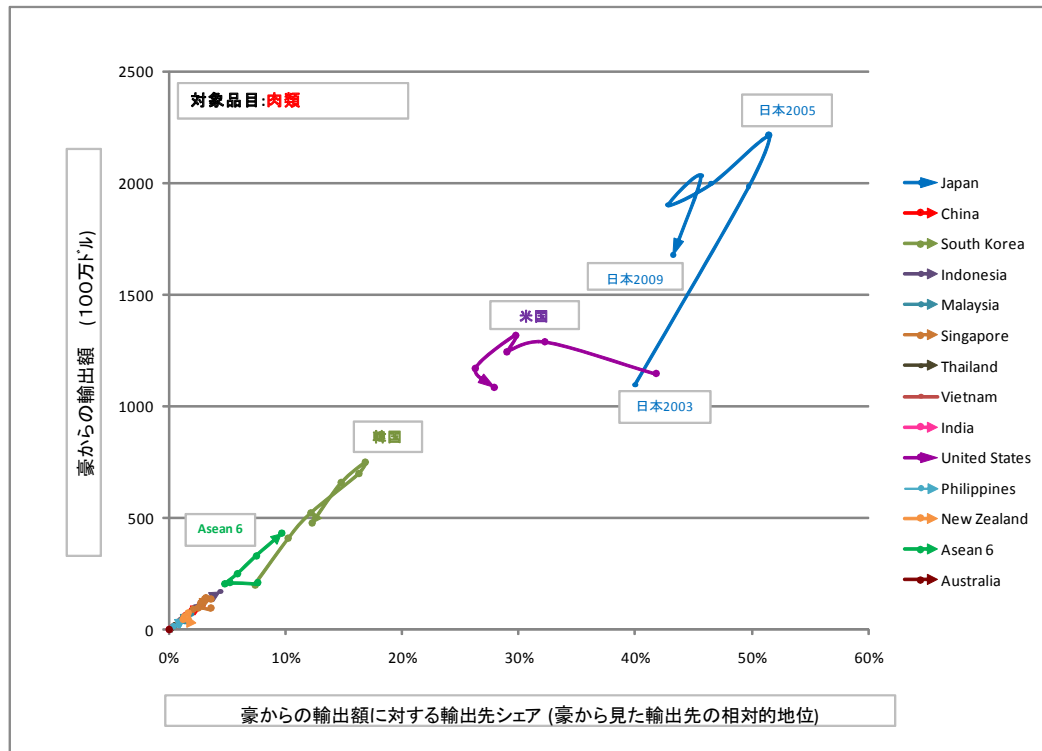
オーストラリアから日本への農林水産物輸出は、第 9-7 図に示すように、アジア太平洋地域内では、オーストラリアから日本への農林水産物輸出が 40 億ドル台・40%シェアと最も高い水準を維持しており、オーストラリアにとって最大の輸出国の位置づけとなっている。また、第 9-23 図に示すように、2008/2003 年比で、日本への輸出は 1.5 倍の 47 億ドルに達する一方、日本からの輸入は 2008 年で 0.5 億ドルとなっているように、輸出額が輸入額の 95 倍と日本への輸出超過が著しい一方的な貿易構造となっている。2008 年の主な輸出品目の輸出額及び輸出額シェアは、肉類が 20 億ドル(43%)、酪農品類が 4 億ドル(9.3%)、油糧種子・油脂類が 3.6 億ドル(7.6%)、穀物類が 3.5 億ドル(7.4%)の順で、この 4 品目で輸出総額の 67%を占める構造となっている。

次に、オーストラリアからの輸出で日本への輸出が首位の農林水産品目は、第 9-25～28 図に示すように、肉類、油糧種子・油脂類、水産物、林産物となっているが、左記 4 品目とも、日本への輸出が他国への輸出よりも断トツに大きく、日本への輸出に偏重した貿易構造となっている。なお、油糧種子・油脂では、2005 年以降、中国への輸出が大きく変動している影響を受け、日本への輸出も乱気流気味と不安定な状況が観察される。また、肉

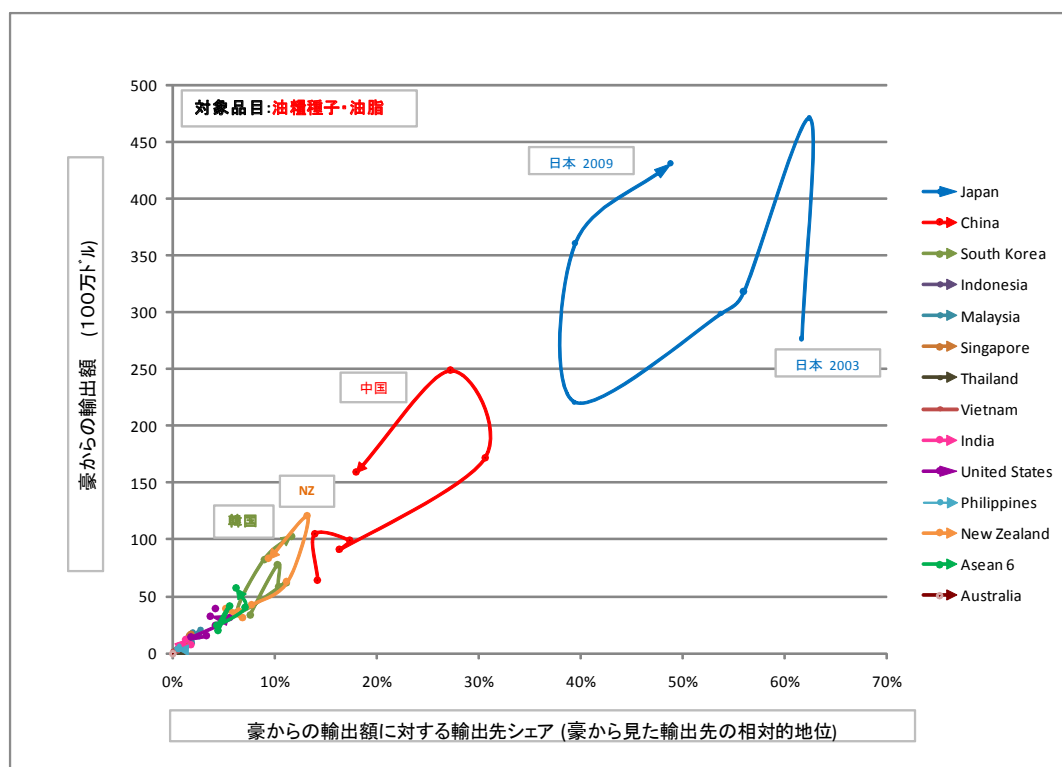
類・水産物は依然日本が首位であるものの、肉類は 2005 年以降輸出額が大幅に減少してきており、水産物は 2009/2003 年比で約 4 割減の 2 億ドルとなるなど以降一貫して減少してきている。林産物は、日本への輸出が 2008/2003 年比で約 2 倍近く増加したが、2009 年には急減し、2004 年並みの 5.8 億ドルまで落ち込んでいる。



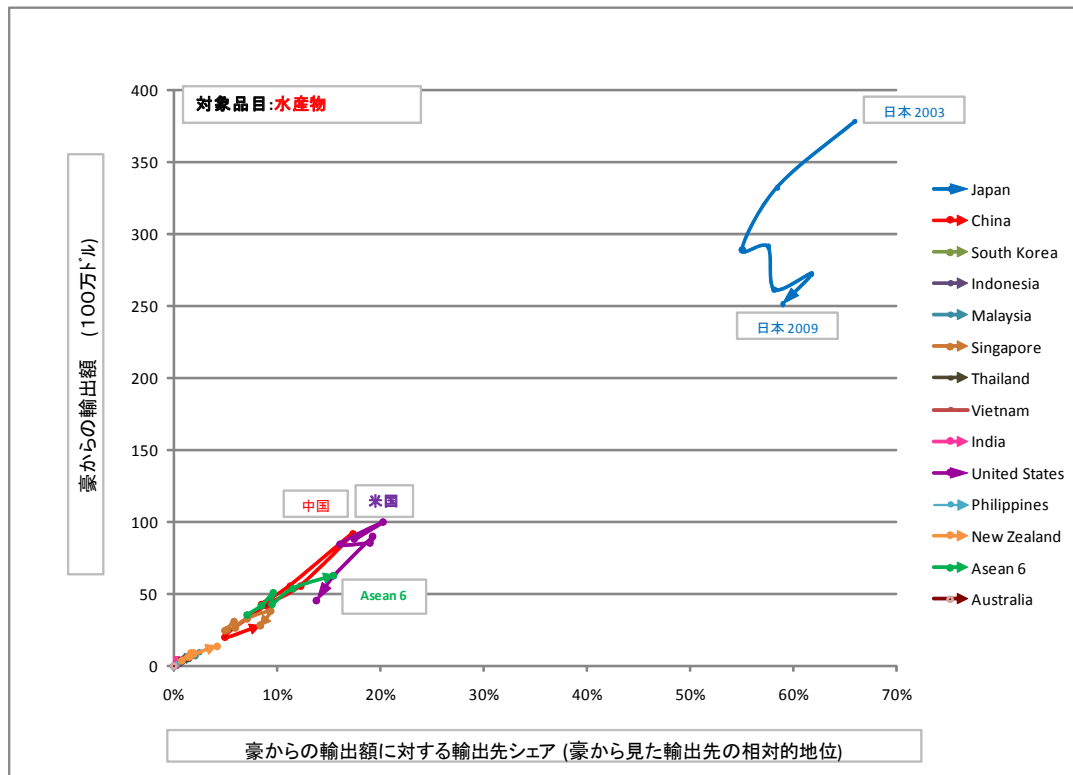
第 9-24 図 オーストラリア-日本における輸出入額の推移(農林水産物)



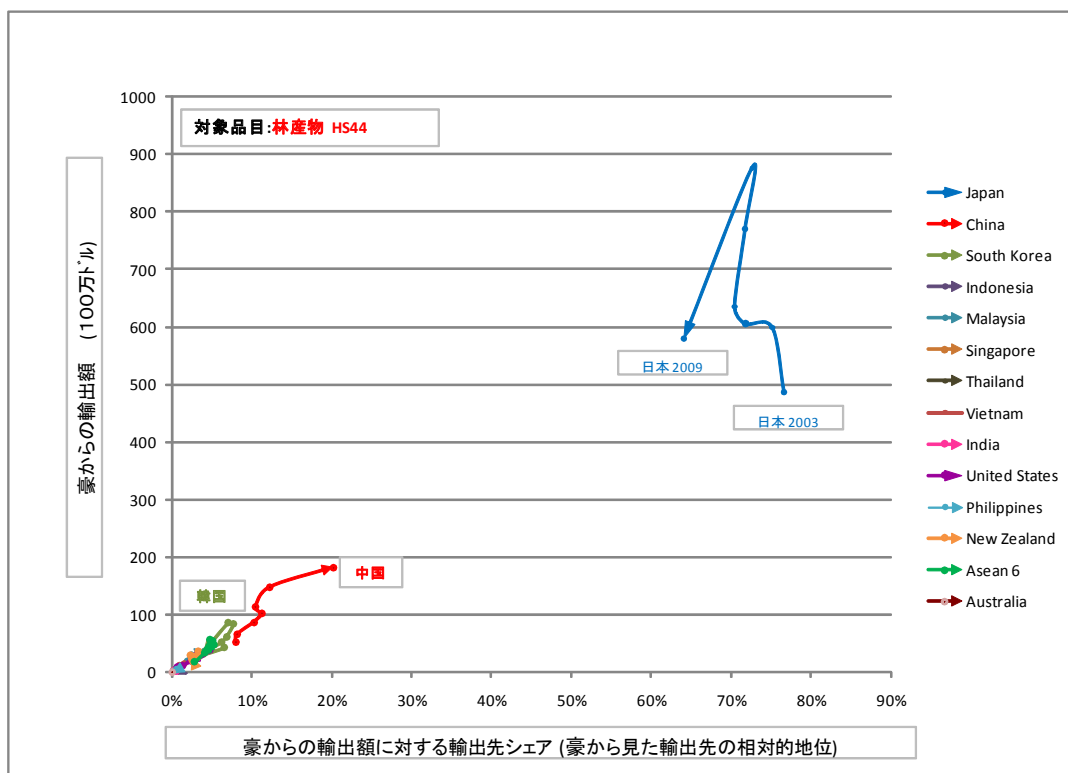
第 9-25 図 オーストラリアからの輸出額と輸出先シェアの動向 (肉類)



第 9-26 図 オーストラリアからの輸出額と輸出先シェアの動向 (油糧種子・油脂)



第 9-27 図 オーストラリアからの輸出額と輸出先シェアの動向(水産物)



第 9-28 図 オーストラリアからの輸出額と輸出先シェアの動向(林産物)

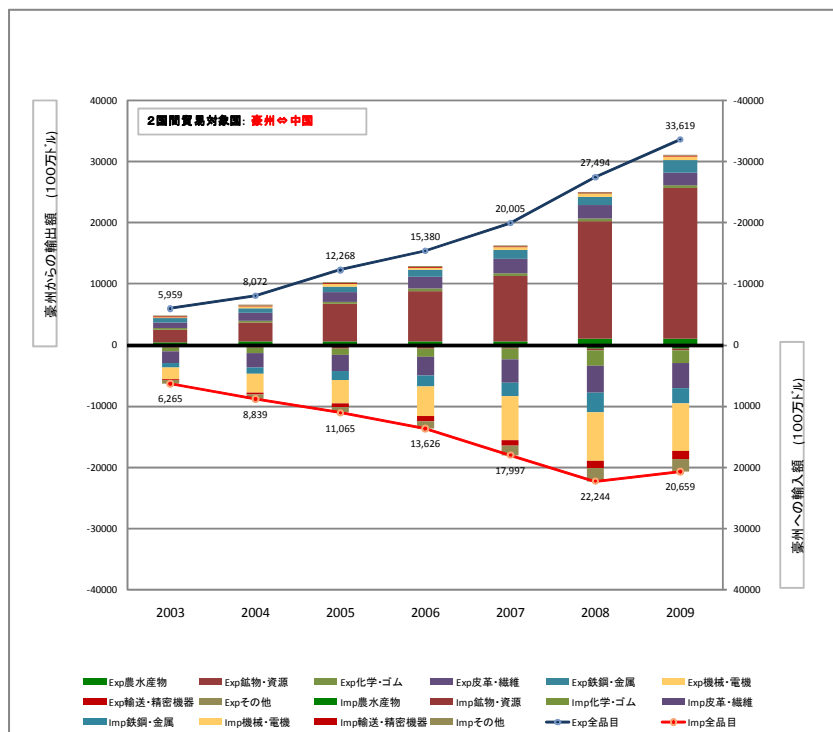
## （２）オーストラリア-中国

### １）全品目の貿易動向

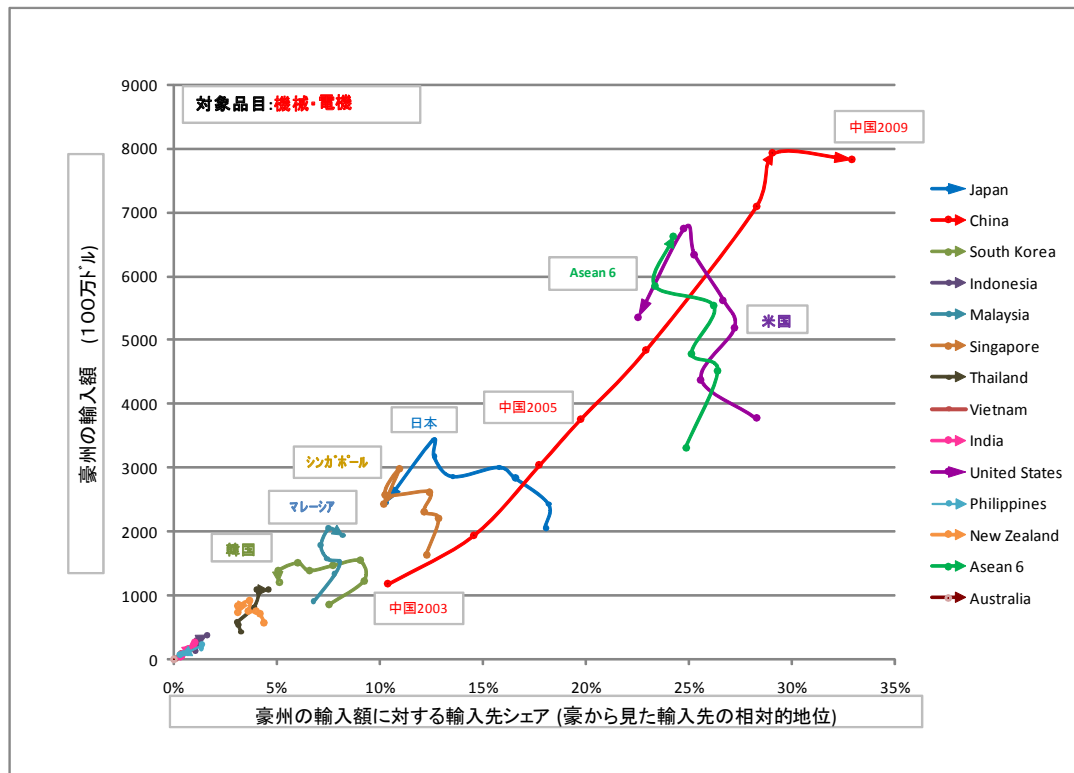
オーストラリアから中国への輸出総額は、第 9-29 図に示すように、2009 年は国際金融危機の煽りがあったにもかかわらず、2009/2003 年比で 5.6 倍の 336 億ドルと急増している。2009 年の主な輸出品目の輸出額及び輸出額シェアは、鉄鋼石・石炭等の鉱物・資源分野が 189 億ドル(73.6%)、鉄鋼・金属分野が 10 億ドル(6.4%)、羊毛等の皮革・繊維分野が 6 億ドル(6.4%)と、圧倒的に鉱物・資源分野が大宗を占める輸出構造となっている。

中国からの輸入総額は、同図が示すように、2009/2003 年比で 3.3 倍の 207 億ドルに増加しているが、中国への輸出総額の 6 割しかなく、オーストラリアから中国への輸出超過が大きい両国間の貿易構造となっている。2009 年における主な品目別の輸入額及びそのシェアは、機械・電気分野が 78 億ドル(37.9%)、皮革・繊維分野が 42 億ドル(20.3%)、家具雑貨等のその他分野が 21 億ドル(10.1%)、鋼・金属分野が 24 億ドル(11.6%)と中国で加工された製品の輸入を、この 4 分野で輸入の 8 割を占めている

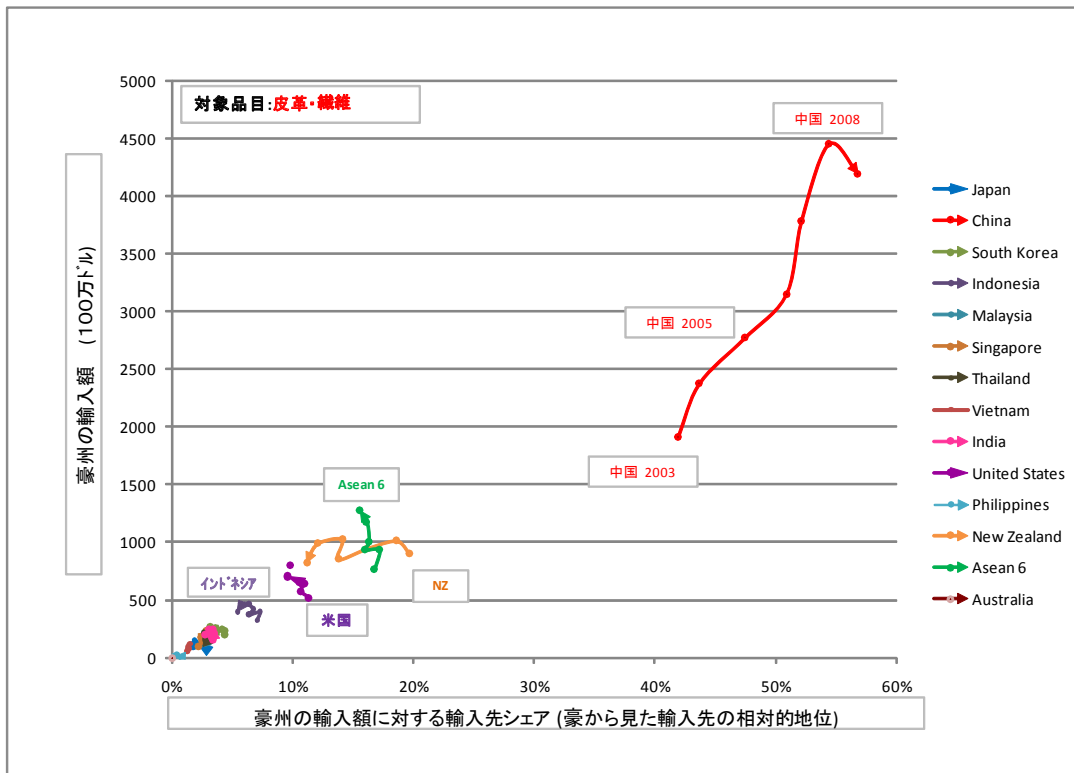
特に、オーストラリアと中国間の貿易で他国との比較でも急速な増加が認められるのは、中国への輸出では、第 9-4 図にも示したように、鉱物・資源分野が支配的である。一方、中国からの輸入では、第 9-30～32 図に示すように、機械・電機分野、皮革・繊維分野、その他分野が急速に拡大している。



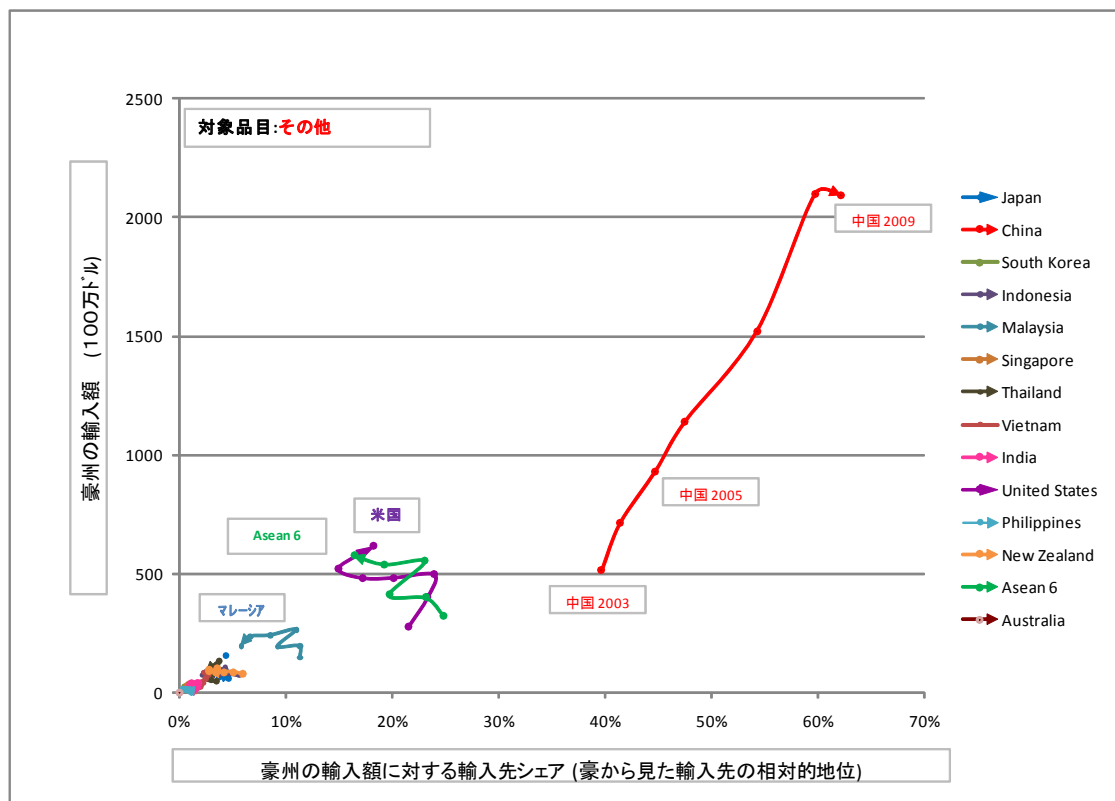
第 9-29 図 オーストラリアと中国との輸出入額の推移(全品目)



第 9-30 図 オーストラリアの輸入額と輸出先シェアの動向(機械・電機)



第 9-31 図 オーストラリアの輸入額と輸出先シェアの動向(皮革・繊維)

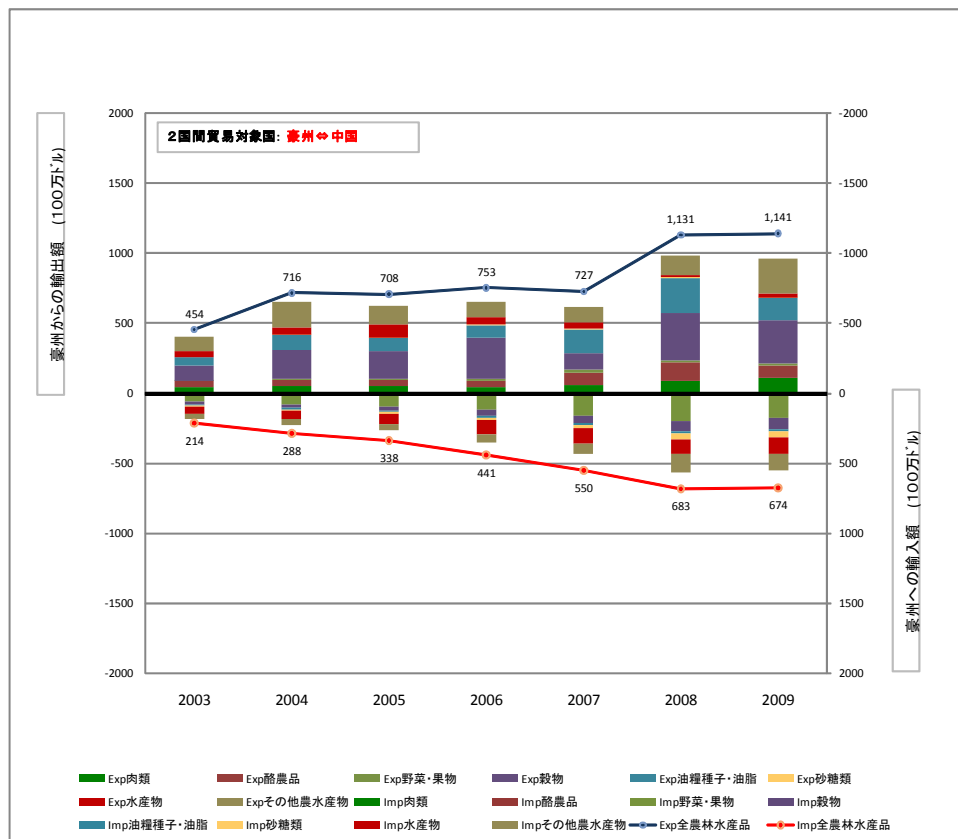


第 9-32 図 オーストラリアの輸入額と輸出先シェアの動向(その他)

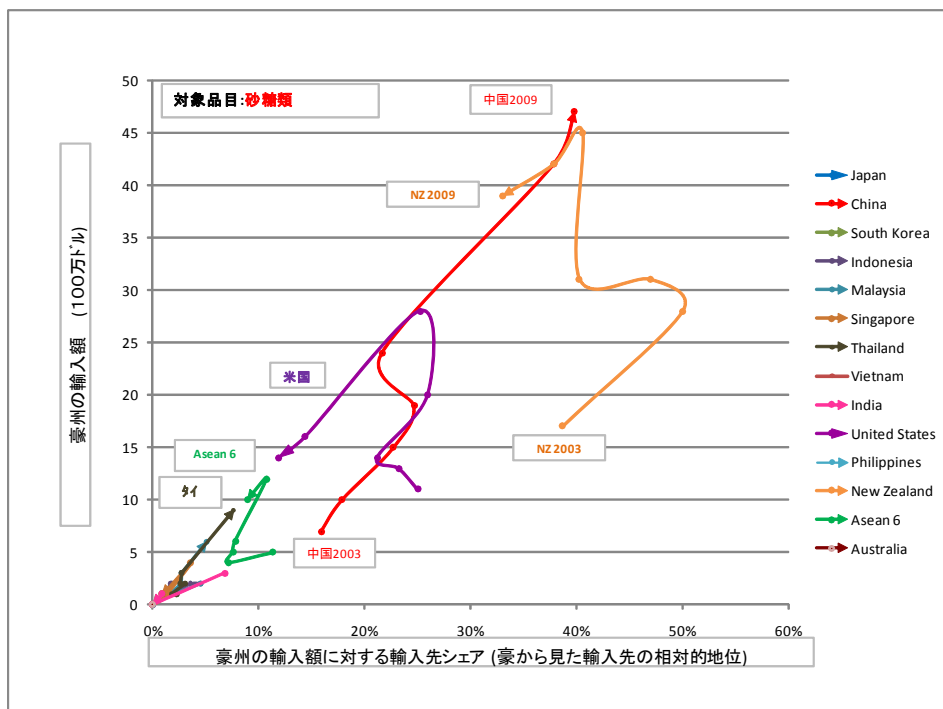
## 2) 農林水産物の貿易動向

オーストラリアと中国との農林水産物輸出入は、2009 年で中国への輸出総額の 2.9%、中国からの輸入総額の 2.7%とごくわずかであり、その貿易品目の地位は低いものとなっているものの、第 9-33 図に示すように、2009/2003 年比で中国への輸出が 2.5 倍の 11 億ドル、中国からの輸入が 3.1 倍の約 7 億ドルと増加傾向にあり、第 9-16 図に示すように中国からの輸入シェアは 2003 年から 2008 年にかけて 4 ポイント増加、2009 年にはオーストラリアの輸入額順位が第 4 位に達するなど、中国からの輸入が急増している。

特に両国間の輸出入で大きな変動が認められる農林水産品目は、第 9-26 図及び第 9-8 図に示すように、中国への輸出では、油糧種子・油脂類及び穀物類であり、グラフに図示されるように年によって貿易額と国別シェアの変動が大きくなっている。また、中国からの輸入では、第 9-19 図に示すように米国・ニュージーランドに続き、野菜・果物が急増しているとともに、砂糖類の輸入額としては小さいものの、第 9-34 図に示すように 2009 年には米国・ニュージーランドからの輸入地位が抜き、中国が第 1 位に浮上していることが注目される。



第 9-33 図 オーストラリア-中国における輸出入額の推移(農林水産物)



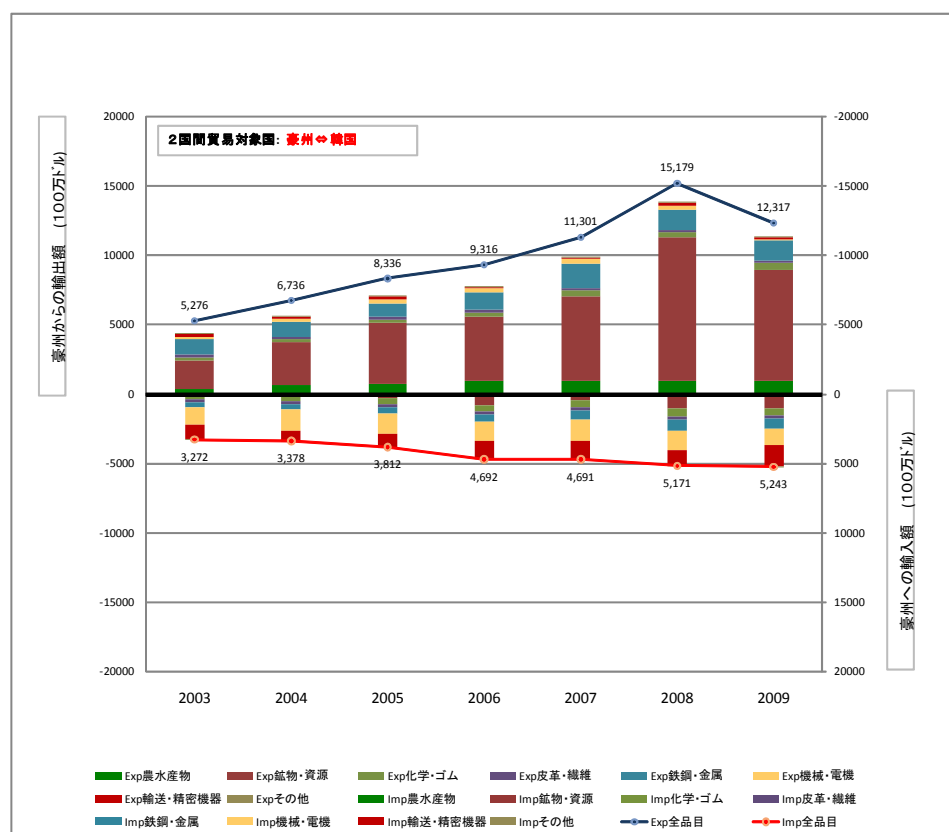
第 9-34 図 オーストラリアの輸入額と輸入先シェアの動向(砂糖類)

### (3) オーストラリア-韓国

#### 1) 全品目の貿易動向

オーストラリアから韓国への輸出総額は、第 9-35 図に示すように、2008/2003 年比で 2.9 倍の 152 億ドルと急増している。2008 年の主な輸出品目の輸出額及び輸出額シェアは、鉄鋼石・石炭等の鉱物・資源分野が 103 億ドル(68.0%), 鉄鋼・金属分野が 15 億ドル(9.6%), 農水産物分野が 9 億ドル(6.2%)の順となっており、それら品目構成比・順位が、日本への輸出構造に類似している(日本への輸出構成比ではそれぞれ 62.8%, 5.4%, 9.2%)。

韓国からの輸入総額は、同図が示すように、2008/2003 年比で 1.6 倍の 52 億ドルに増加しているが、韓国への輸出総額の約 3 割しかなく、オーストラリアから韓国への輸出超過が著しく大きい構造となっており、日本との貿易構造(輸入総額は輸出総額の 4 割)に類似している。2008 年における主な品目別の輸入額及びそのシェアは、機械・電気分野が 14 億ドル(26.9%), 輸送・精密機器分野が 11 億ドル(21.8%), 鉱物・資源分野が 9 億ドル(17.8%)と、この 3 分野で輸入の 7 割を占めている。

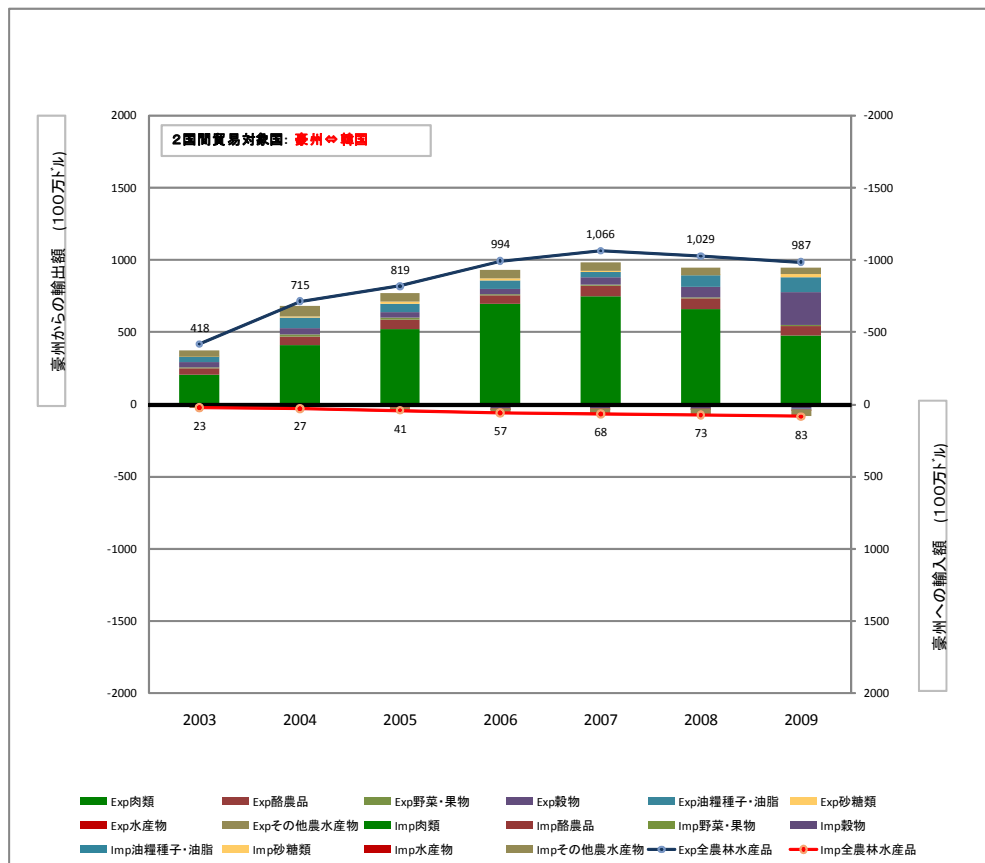


第 9-35 図 オーストラリアと韓国との輸出入額の推移(全品目)

## 2) 農林水産物の貿易動向

オーストラリアと韓国との農林水産物輸出入は、2008年で韓国への輸出総額の7.8%、中国からの輸入総額の1.6%とごくわずかであり、その貿易品目の地位は低いものとなっている。また、第9-36図に示すように、2008/2003年比で、韓国への農林水産物輸出は2.5倍の10億ドルに達する一方、韓国からの輸入は2008年で0.7億ドルとなっているように、輸出額が輸入額の14倍以上と韓国への輸出超過が著しく大きい一方的な貿易構造となっており、この点も日本との貿易構造に類似している。2008年の主な輸出品目の輸出額及び輸出額シェアは、肉類が6.6億ドル(63.9%)、油糧種子・油脂類が0.8億ドル(8.0%)、穀物類が0.8億ドル(7.5%)、酪農品類が0.7億ドル(7.2%)の順で、この4品目で輸出総額の87%を占める構造となっている。

オーストラリアと韓国の農林水産物貿易において大きく変動している動きは、第9-25図・第9-36図に示すように、韓国への肉類輸出は、2007年以降低下してきているのが注目される点である。また、2009年においては、穀物類が2008年の1.5倍の2.3億ドルに急増している。



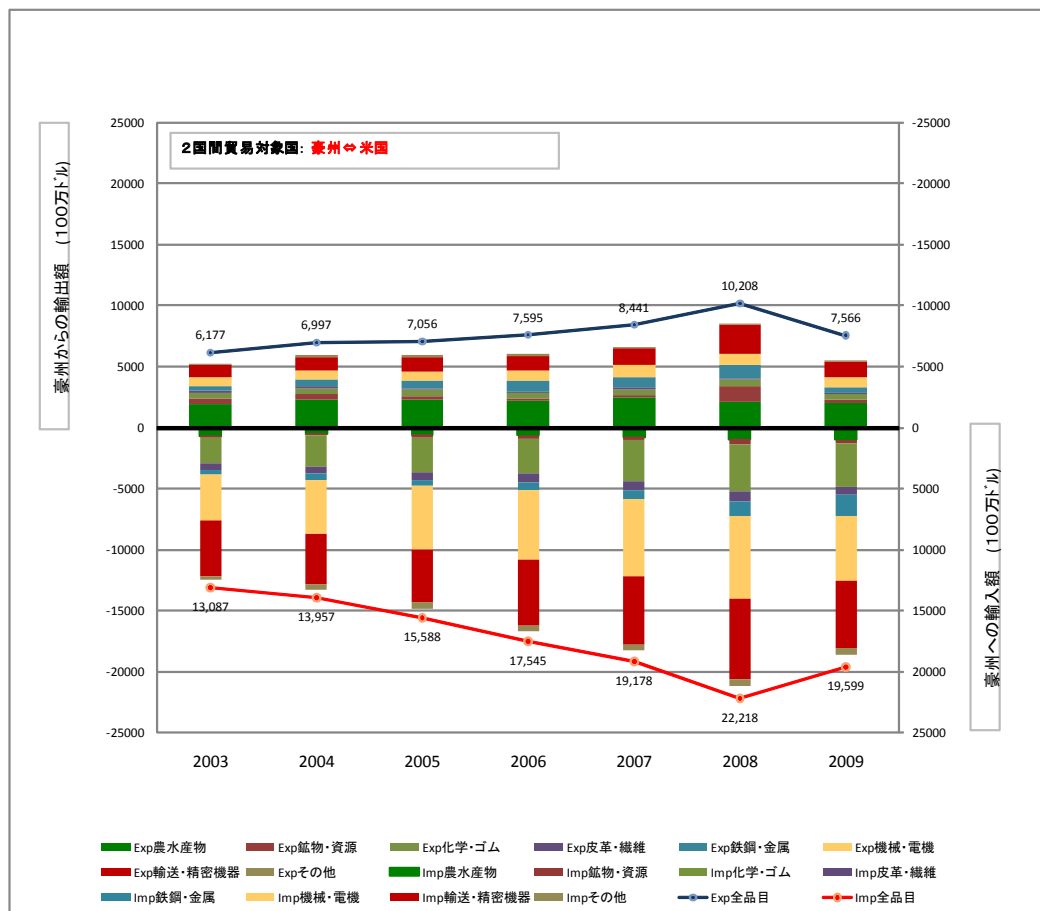
第9-36図 オーストラリアと韓国との輸出入額の推移(農林水産物)

## (4) オーストラリア-米国

### 1) 全品目の貿易動向

オーストラリアから米国への輸出総額は、第 9-37 図に示すように、2008/2003 年比で 1.7 倍の 102 億ドルと増加しているが、米国からの輸入総額の約 5 割しかなく、米国からオーストラリアへの輸入超過が大きい貿易構造となっている。2008 年の主な輸出品目の輸出額及び輸出額シェアは、輸送・精密機器分野が 24 億ドル(23.0%)、農水産物分野が 22 億ドル(21.1%)、鉱物・資源分野が 12 億ドル(12.1%)、鉄鋼・金属分野が 10 億ドル(10.0%)、機械・電機分野が 10 億ドル(9.8%)の順となっており、それら品目の総計で輸出額の 6 割強を占めている。

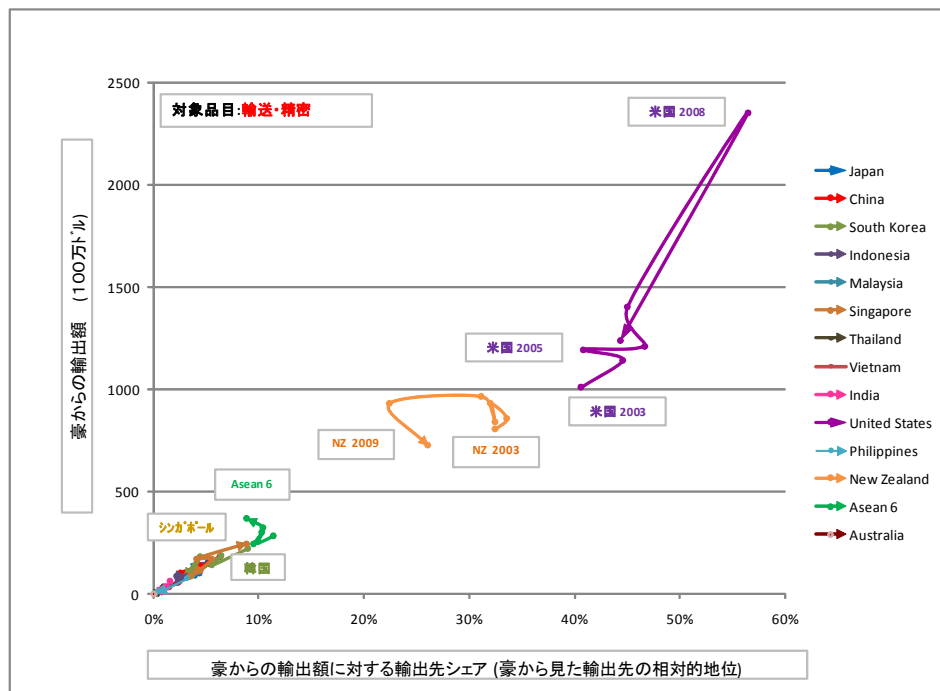
米国からの輸入総額は、同図が示すように、2008/2003 年比で 1.6 倍の 222 億ドルに増加している。2008 年における主な品目別の輸入額及びそのシェアは、機械・電気分野が 68 億ドル(30.4%)、輸送・精密機器分野が 66 億ドル(29.7%)、化学・ゴム分野が 39 億ドル(17.6%)の順になっており、この 3 分野で輸入の約 8 割弱を占める構造となっている。



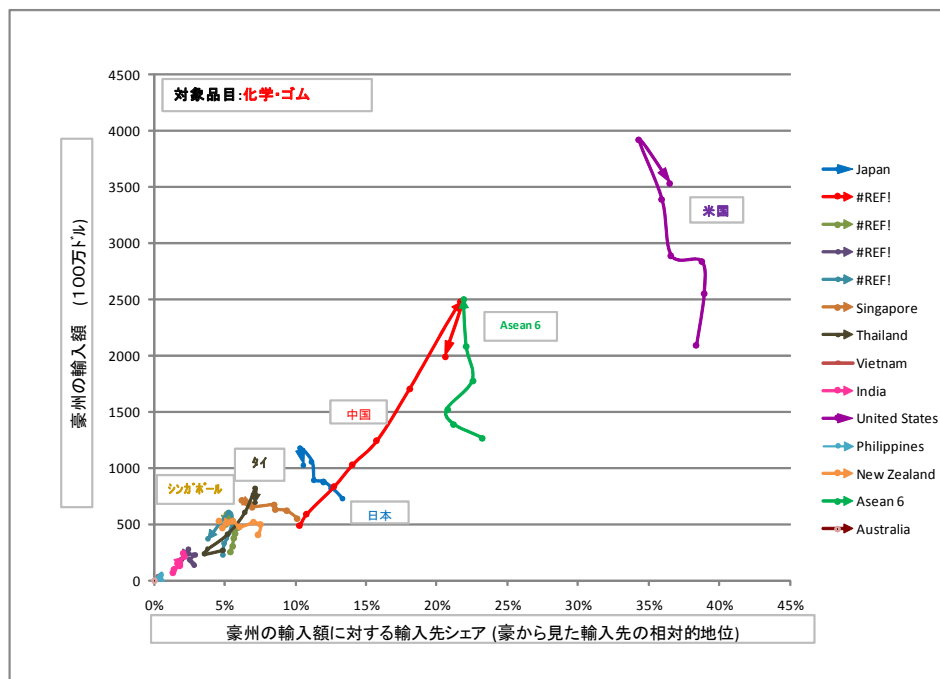
第 9-37 図 オーストラリアと米国との輸出入額の推移(全品目)

オーストラリアと米国との貿易特性を知る上で特記しておきたい品目は、オーストラリアからの輸出では輸送・精密機械分野、米国からの輸入では化学・ゴム分野である。第 9-38

図及び第 9-39 図に示すように, 年による大幅な貿易変動や他国の追い上げ等が見られるものの, 両品目の貿易額・シェアとも大きく, 米国との貿易関係が強いものとなっている。



第 9-38 図 オーストラリアの輸出額と輸出先シェアの動向(輸送・精密機械)

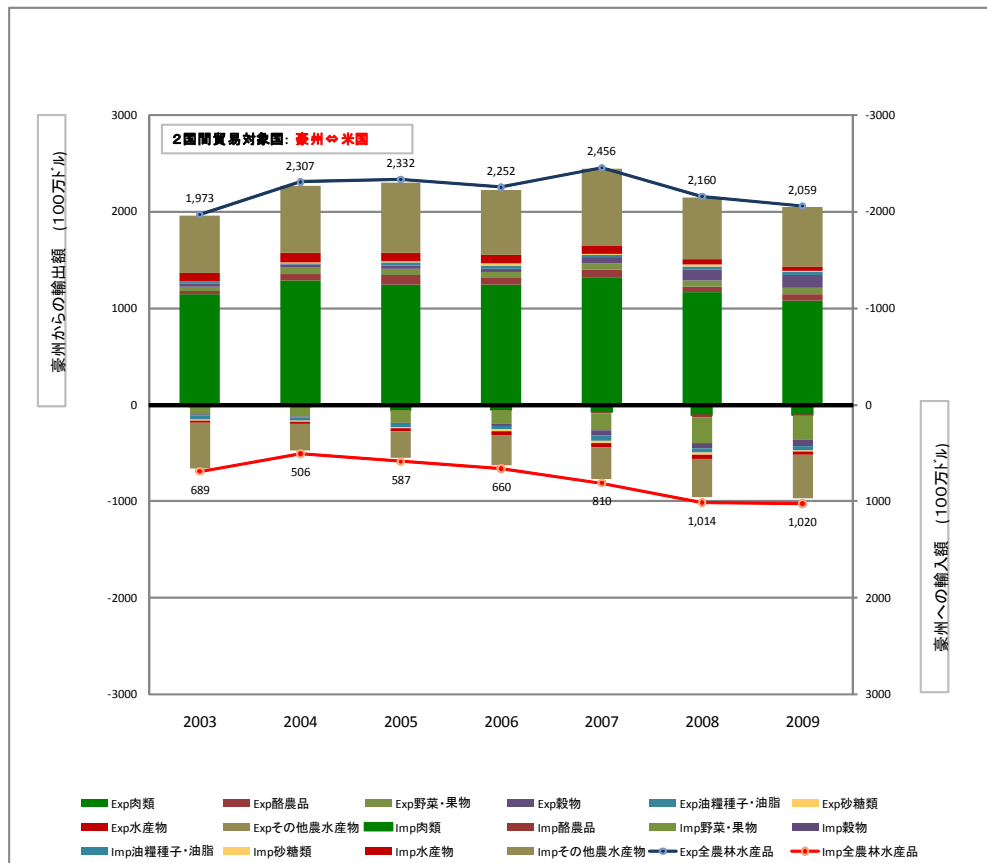


第 9-39 図 オーストラリアの輸入額と輸入先シェアの動向(化学・ゴム)

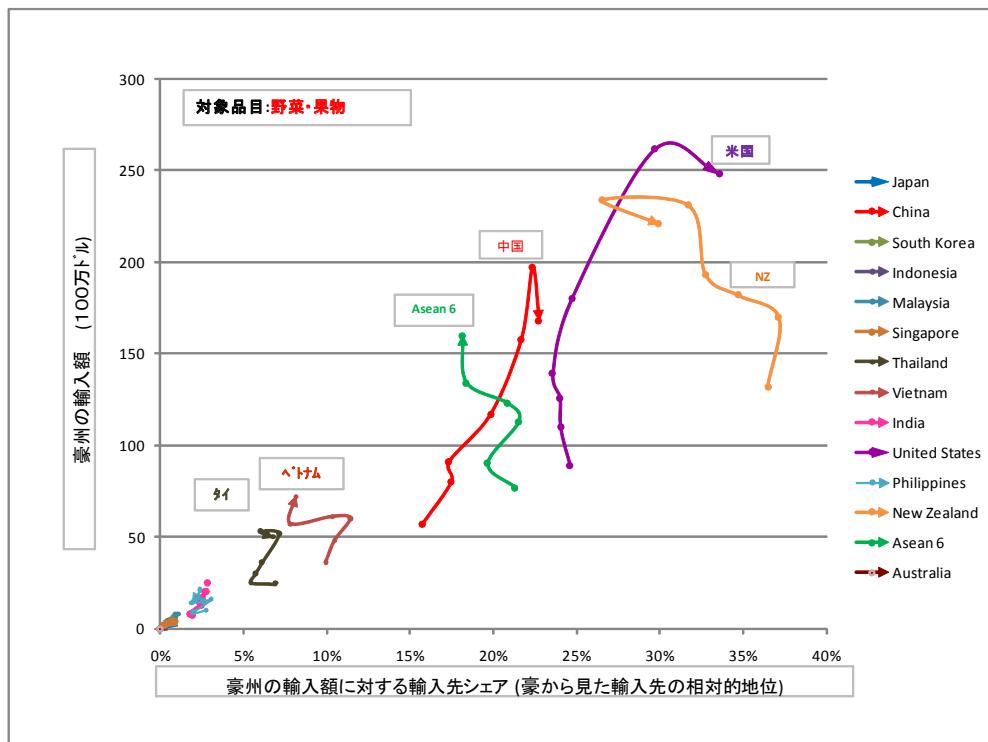
## 2) 農林水産物の貿易動向

米国への農林水産物輸出は、2008年で米国への輸出総額の21%にあたる22億ドルも占める主要輸出品の地位(肉類はその54%の12億ドル)である一方で、米国からの農産物輸入は、米国からの輸入総額の4.9%にあたる10億ドル(肉類はその10%の1億ドル)しか占めていないなど、貿易額で約2倍の輸出超過(肉類では10倍以上の輸出超過)となっていることに注目しておきたい。特に、肉類の主流を占める牛肉については、2001年欧米で発生した牛海綿状脳症(BSE)により、オーストラリア政府が、BSEが発生したとされる各国からの牛肉の輸入を禁止したことに大きく起因しているものと判断される。

米国からの農林水産物輸入で特徴的な動向として、第9-41図に示すように、野菜・果物が2008/2003年比で2.9倍の2.6億ドルに達し、これまでの最大の輸入国であったニュージーランドを抜き第1位になるなど、米国からの野菜・果物が急増している点が注目される。



第9-40図 オーストラリアと米国との輸出入額の推移(農林水産物)



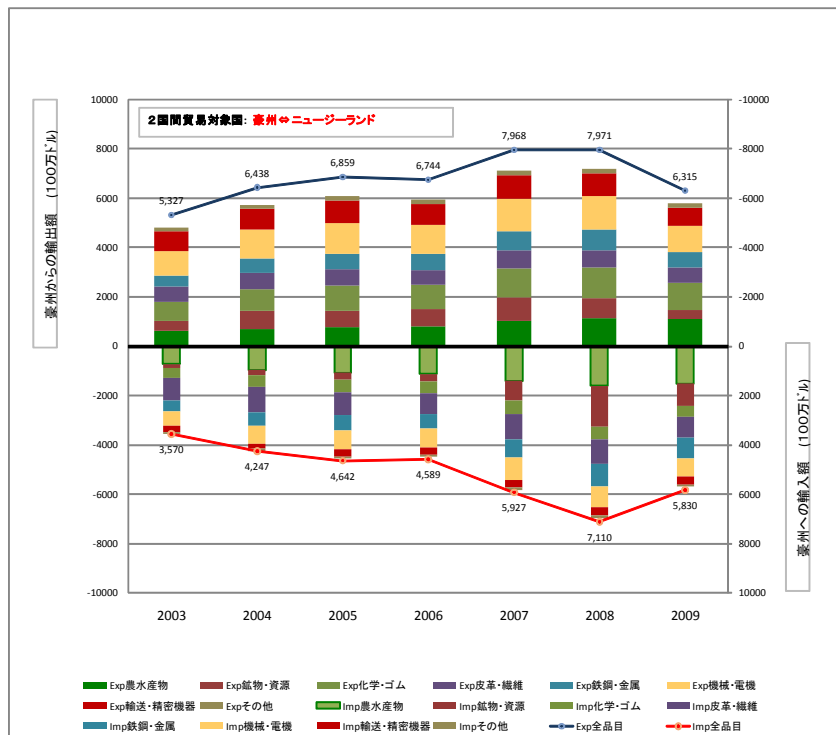
第 9-41 図 オーストラリアの輸入額と輸入先シェアの動向 (野菜・果物)

## (5) オーストラリア-ニュージーランド

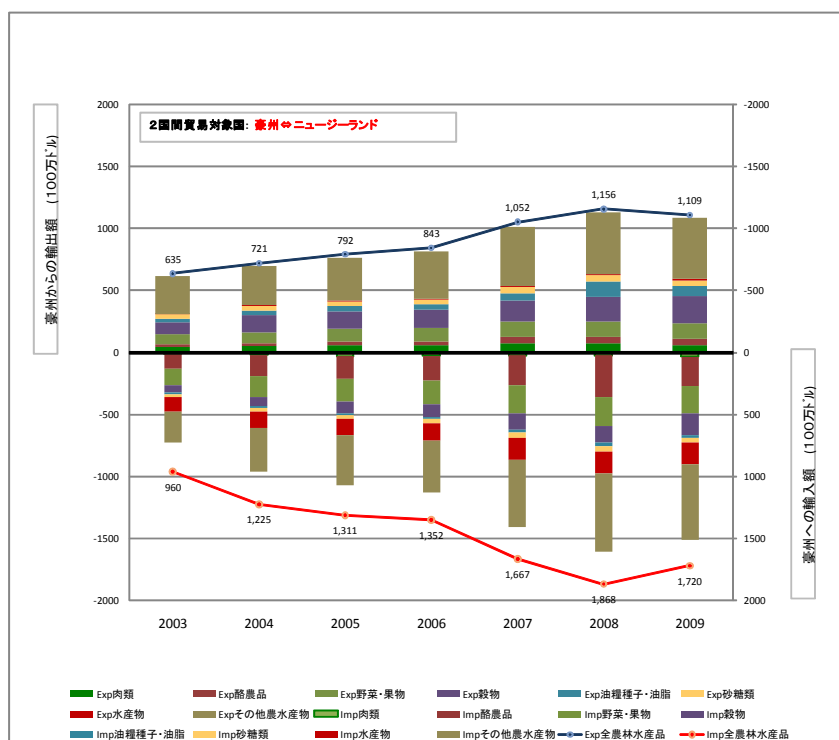
### 1) 全品目の貿易動向

オーストラリアからニュージーランドへの輸出総額は、第 9-42 図に示すように、2008/2003 年比で 1.5 倍の 80 億ドルと増加しているとともに、ニュージーランドからの輸入総額も同年比で 2 倍の 71 億ドルとほぼ均衡した貿易構造となっている。2008 年の主な輸出品目の輸出額及び輸出額シェアは、機械・電機分野が 13.5 億ドル(17.0%)、化学・ゴム分野が 12 億ドル(15.5%)、農水産物分野が 11 億ドル(14.2%)の順となっており、その他の分野も 7~10%台の構成比となっている等、品目別に見てもほぼ均等な輸出構造となっている。

また、ニュージーランドからの輸入総額は、同図が示すように、2008 年における主な品目別の輸入額及びそのシェアは、鉱物・資源分野が 16.5 億ドル(23.3%)、農水産物分野が 16 億ドル(22.6%)、皮革・繊維分野が 10 億ドル(13.9%)、鉄鋼・金属分野が 9 億ドル(12.9%)の順になっている。



第 9-42 図 オーストラリアとニュージーランドとの輸出入額の推移(全品目)



第 9-43 図 オーストラリアとニュージーランドとの輸出入額の推移(農林水産物)

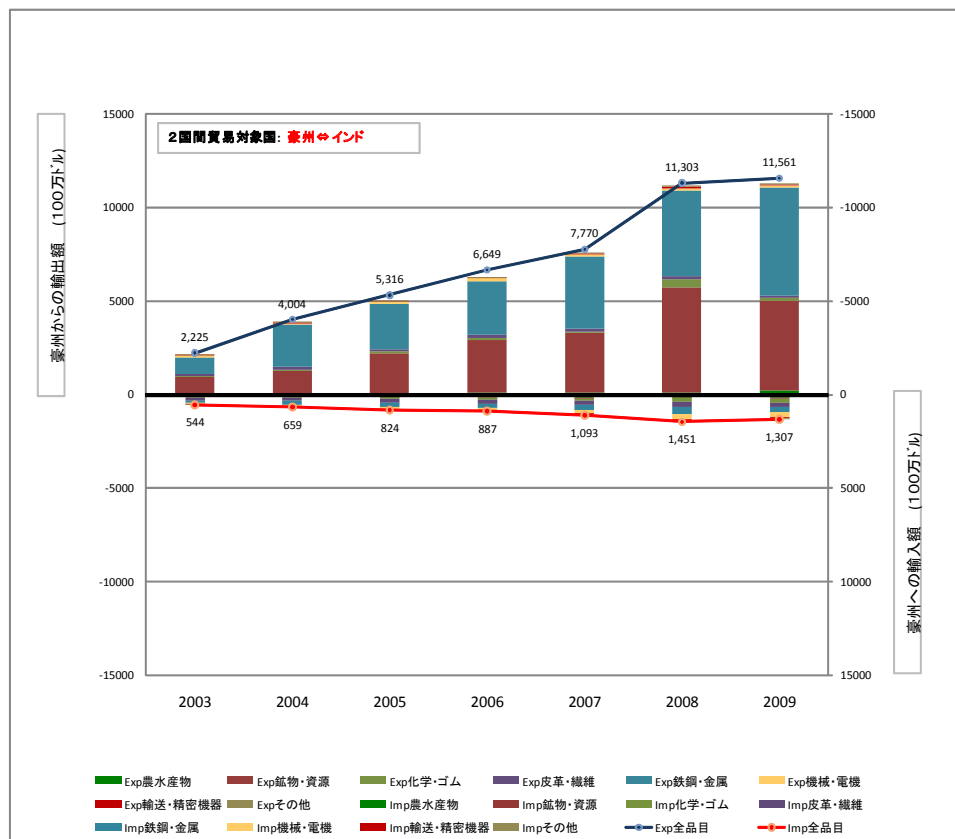
## 2) 農林水産物の貿易動向

ニュージーランドとの農林水産物貿易は、第 9-43 図に示すように、2008/2003 年比で、輸出は 1.8 倍の 12 億ドル、輸入は 2 倍の 19 億ドルと若干輸入超過となっている。品目別に見ると、双方向とも、加工食品等のその他農産物が 35%以上占めている。なお、他国との比較において、ニュージーランドへの輸出が多い品目は、野菜・果物、砂糖類で、ニュージーランドからの輸入は肉類、酪農品、野菜・果物、穀物、砂糖類、林産物である。

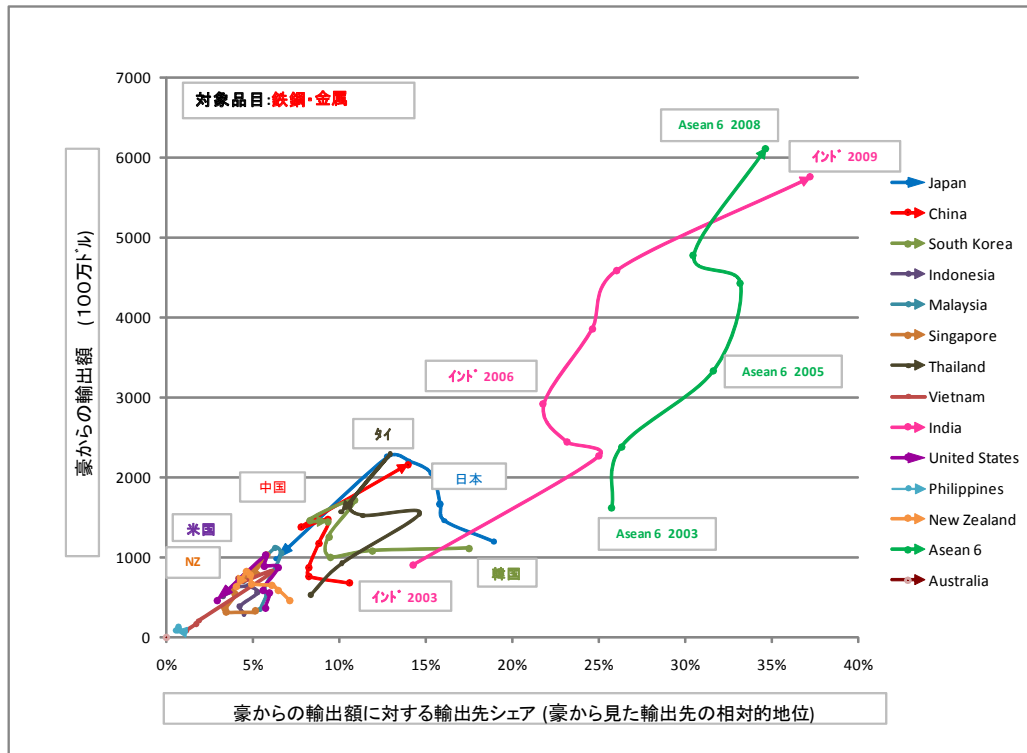
## (6) オーストラリア-インド

### 1) 全品目の貿易動向

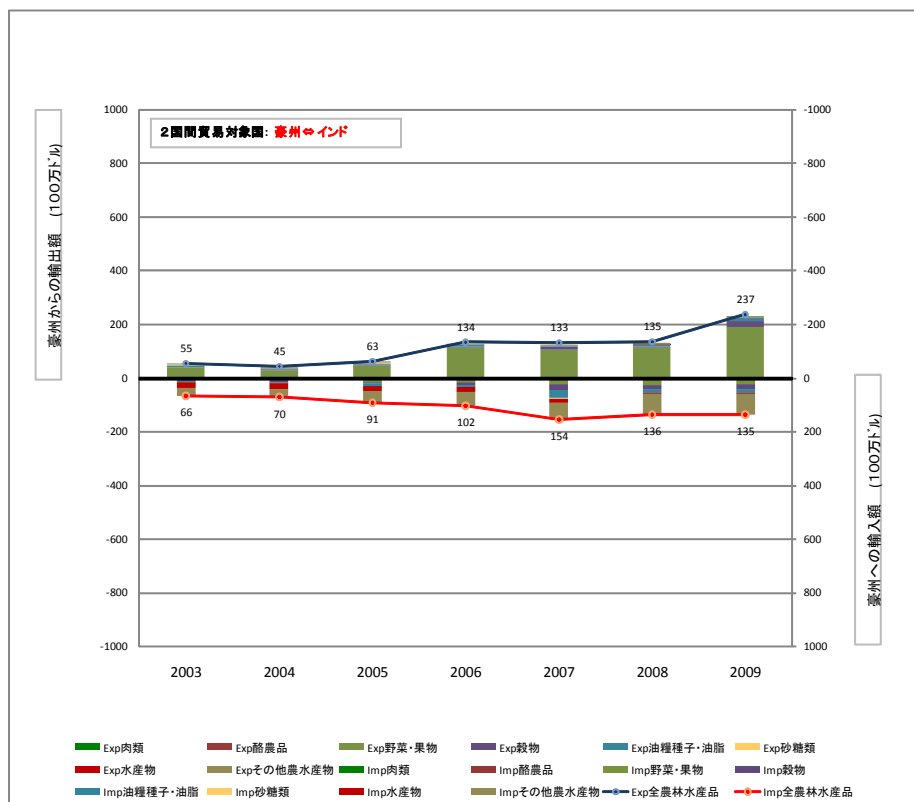
オーストラリアからインドへの輸出総額は、第 9-44 図に示すように、2008/2003 年比で 5 倍の 113 億ドルと急増している一方、インドからの輸入総額は 2008 年の 15 億ドルと低迷しており、輸出額が輸入額の約 10 倍に達する一方的な輸出超過の貿易構造になっている。2008 年の主な輸出品目の輸出額及び輸出額シェアは、鉱物・資源分野が 56 億ドル(49.3%)、鉄鋼・金属分野が 46 億ドル(40.6%)の順になっており、この 2 分野のみで、輸出総額の 9 割を占める極めて偏った輸出構造となっている。特に、2009 年には鉄鋼・金属分野は、第 9-44 図に示すように、オーストラリアからインドへの輸出が急増し、ASEAN への輸出額を抜き、第 1 位の輸出先となっている。



第 9-44 図 オーストラリアとインドとの輸出入額の推移(全品目)



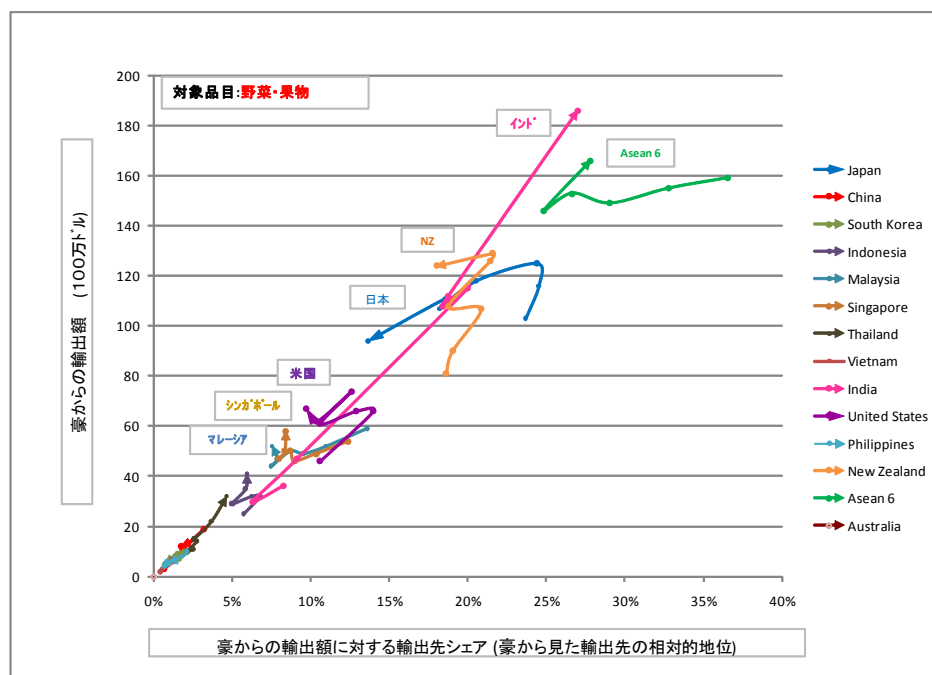
第 9-45 図 オーストラリアの輸出額と輸出先シェアの動向(鉄鋼・金属)



第 9-46 図 オーストラリアとインドとの輸出入額の推移(農林水産物)

## 2) 農林水産物の貿易動向

インドとの農林水産物貿易は、第 9-44 図に示すように、2008 年で輸出総額の 2%、輸入総額の 10%とわずかであるが、品目別に見ると、第 9-46 図及び第 9-47 図に示すように、インドへの野菜・果物が急速拡大しており、農林水産物輸出の 8 割を占めるなど、野菜・果物に特化した輸出構造となっている。一方、インドからはその他農産物が 6 割を占めている。



第 9-47 図 オーストラリアからの輸出額と輸出先シェアの推移(野菜・果物)

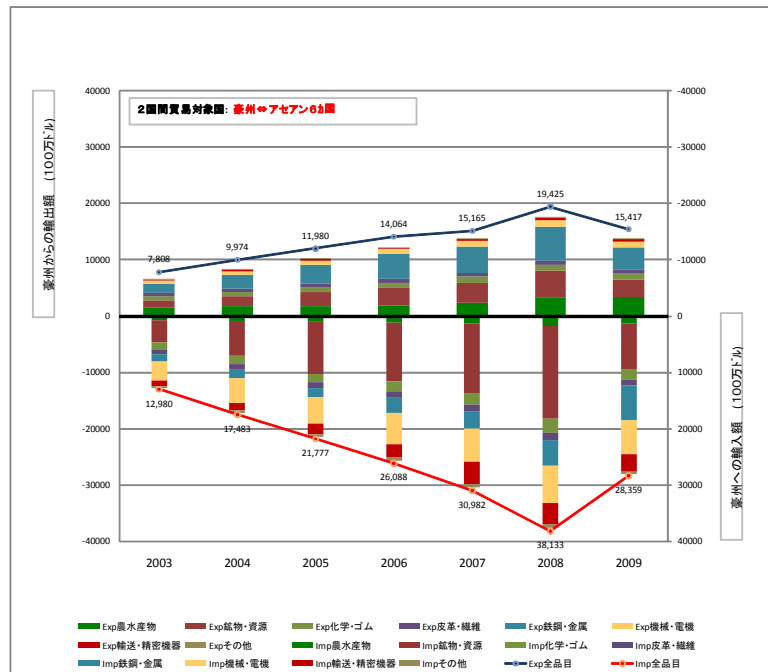
## (7) オーストラリア-ASEAN

### 1) 全品目の貿易動向

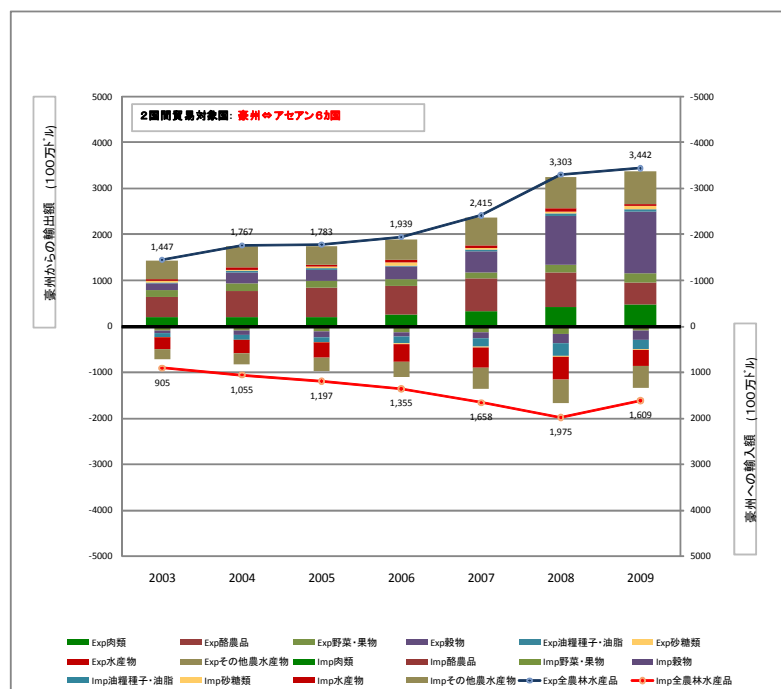
オーストラリアから ASEAN への輸出総額は、第 9-48 図に示すように、2008/2003 年比で 2.5 倍の 194 億ドルと増加している一方、ASEAN からの輸入総額は同年比で 4 倍の 381 億ドルと輸入額が輸出額の約 2 倍に達する輸入超過の貿易構造になっている。また、2008 年のオーストラリアからの対アジア太平洋地域への輸出額シェアは、第 9-3 図に示すように 14.6%と、中国、日本に次ぐ第三位の輸出先となっている。一方、ASEAN からの輸入は、第 9-11 図に示すように、同地域の輸入シェアは 33.6%を占める第一位の輸入先であり、中国・米国からの輸入を大きく引き離し、突出したものとなっている。

2008 年の主な品目別の輸出額及び輸出額シェアは、鉄鋼・金属分野が 61 億ドル(31.5%)、鉱物・資源分野が 47 億ドル(24.4%)、農水産物分野が 33 億ドル(16.8%)、化学・ゴム分野が 12 億ドル(5.9%)、機械・電機分野が 11 億ドル(5.8%)の順となっている。

また、ASEAN からの輸入は、同図が示すように、2008 年における主な品目別の輸入額及びそのシェアは、鉱物・資源分野が 165 億ドル(43.2%)、機械・電機分野が 66 億ドル(17.3%)、鉄鋼・金属分野が 46 億ドル(12.1%)、輸送・精密機械分野が 37 億ドル(9.8%)、化学・ゴム分野が 25 億ドル(6.6%)の順となっている。



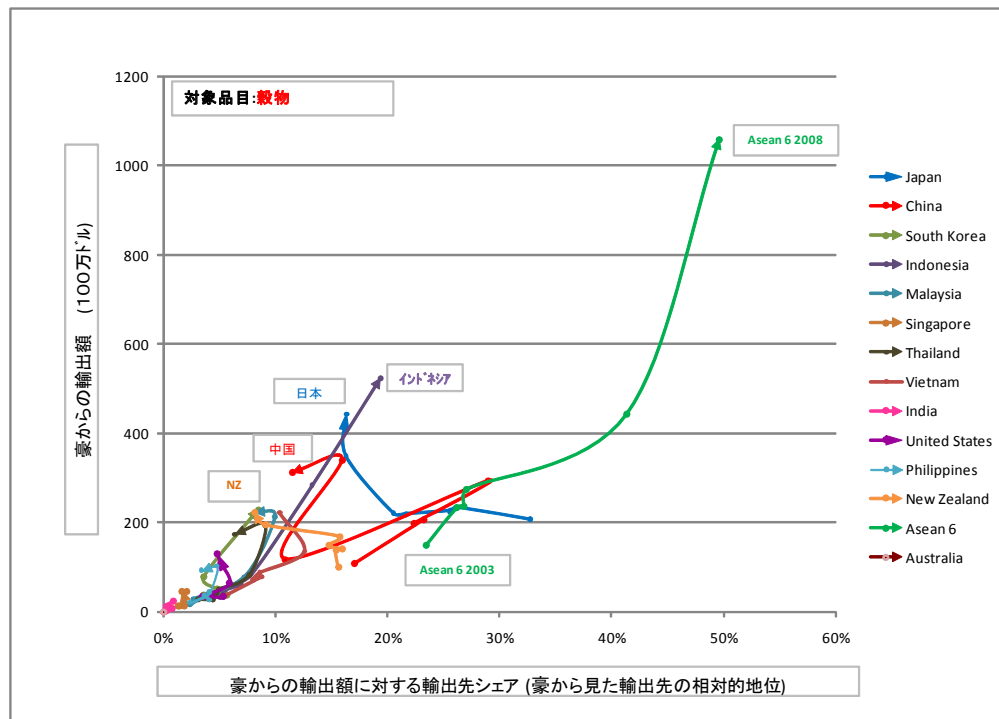
第 9-48 図 オーストラリアと ASEAN との輸出入額の推移(全品目)



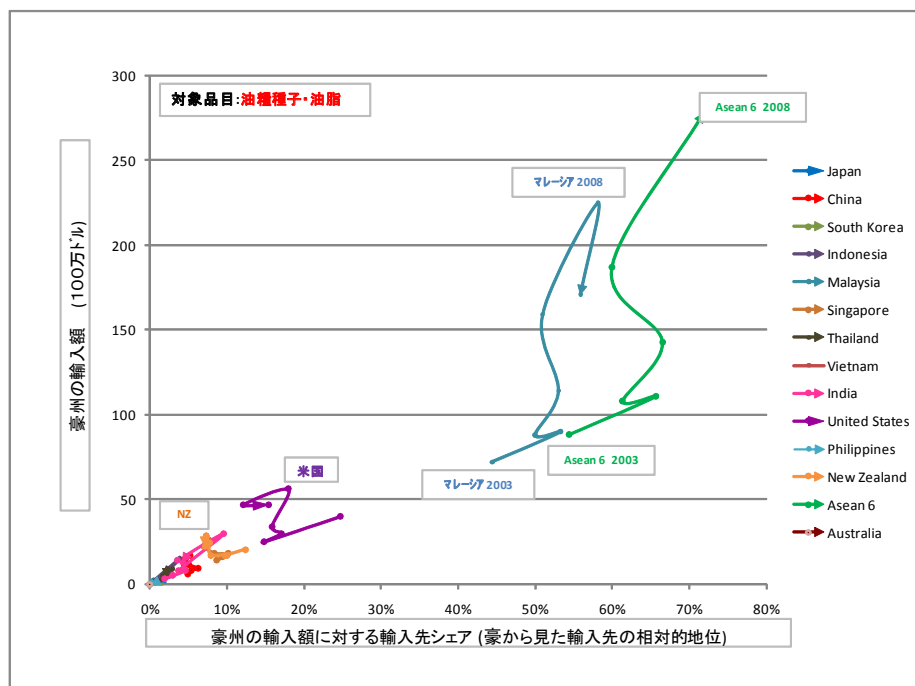
第 9-49 図 オーストラリアと ASEAN との輸出入額の推移(農林水産物)

## 2) 農林水産物の貿易動向

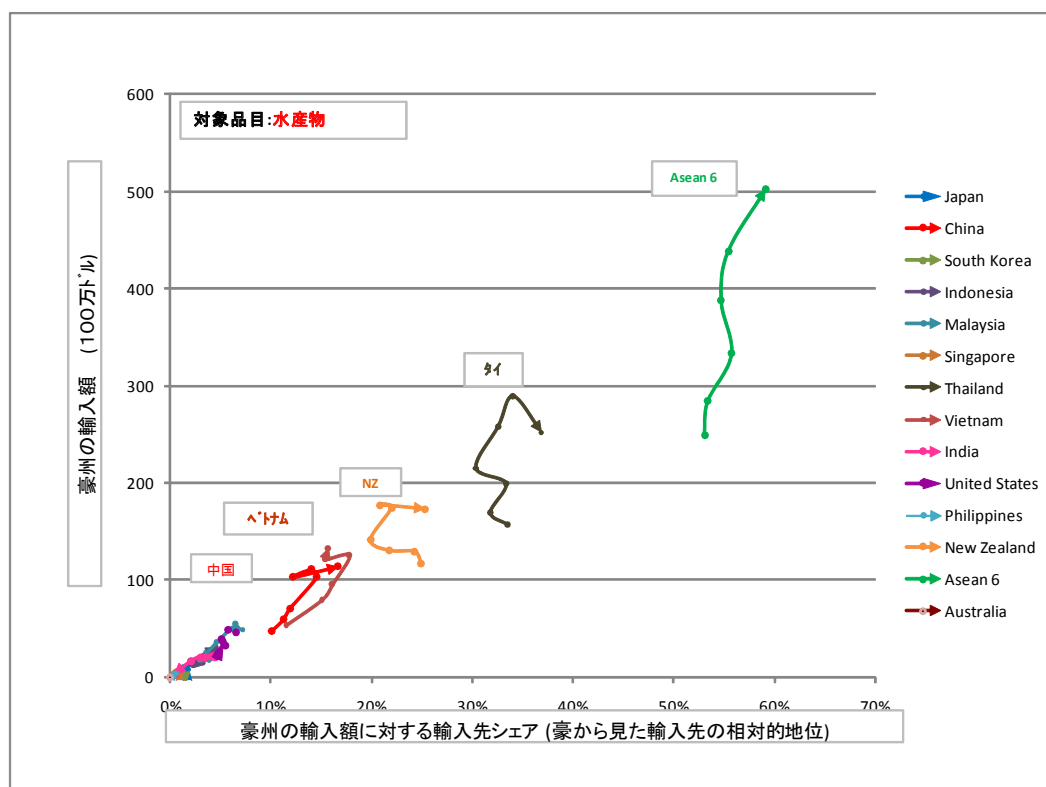
ASEAN との農林水産物貿易は、第 9-48 図に示すように、2008 年で輸出総額の 17%に 対して、輸入総額の 4%とわずかとなっている。品目別に見ると、第 9-8 図に示すように、 ASEAN への穀物輸出(特にインドネシア)が急速拡大している一方、第 9-49～51 図に示す ように、ASEAN からは、マレーシアからの油糧種子・油脂、タイ・ベトナムからの水産 物の輸入が急速に拡大しているのが目立っている。



第 9-8 図(再掲) オーストラリアからの輸出額と輸出先シェアの推移(穀物)



第 9-50 図 オーストラリアの輸入額と輸入先シェアの推移 (油糧種子・油脂)



第 9-51 図 オーストラリアの輸入額と輸入先シェアの推移 (水産物)

### 3. 貿易構造の変化に関する考察

ここでは、オーストラリアとアジア太平洋諸国の各国との関係を、各国との貿易結合度指数（オーストラリアからの輸出ベース）とオーストラリアからの各国への輸出力指数の2つのパラメーターを用いて、各国との関係について、いくつかのタイプ分けに整理できないか試みた。

与えた式は以下のとおりである。

① 結合度(オーストラリア→各国) = (オーストラリアの輸出総額に対する相手国への輸出シェア)/(相手国輸入総額に占めるオーストラリアからの輸入シェア)

② 結合度残差 = ① - 1

③ 輸出競争力指数 = (相手国への輸出額 - 相手国からの輸入額) / (相手国への輸出額 + 相手国からの輸入額)

第 9-52 図は、横軸に③の輸出競争力指数の値（-1.0～1.0）を取り、縦軸に②の結合度残差の値を取って、2003 年と 2008 年の各国の 2 つの指数を分散図にしてプロットしたものである。なお、縦軸の値を結合度残差とした理由は、一般に、①が 1 以上の値であれば、その国が相手国に輸出する際、その相手国との結合度は高いと判断できる指標（逆に 1 未満であれば弱いと判断）として利用されている。このことを応用して、①の値から 1 を差し引けば、①が 1 未満の値を示す国の値（結合度が低い値）をマイナス表現できることにより、それぞれの国の値をマイナス側とプラス側の値で明確に区分しやすいと考えたためである。例えば、結合度 0.23（弱いと判断される規模）の場合、1 を基準に強い・弱いと判断するよりも、 $0.23 - 1.0 = -0.76$  と表現した方が、より明確に結合度が弱いと理解できる利点があることである。この図から、軸が交差する 0 点を基軸として、4 つの領域の区分とそれぞれ意味づけを与えることが出来き、同図と表 2～3 が示すように、各国の位置づけを以下のように整理することが出来る。

A) 輸出競争力指数、結合度残差ともプラス値の領域

- オーストラリアからの輸出力が強く、オーストラリアからの輸出結合も強い国の領域
- ニュージーランド、インド、韓国、日本、中国

B) 輸出競争力指数はマイナス値、結合度残差はプラス値の領域

- 相手国からの輸出力が強いが、オーストラリアからの輸出結合も強い国の領域
- 該当なし

C) 輸出競争力指数, 結合度残差ともマイナス値の領域

- 相手国からの輸出力が強く, オーストラリアからの輸出結合も弱い国の領域
- シンガポール, ASEAN, 米国, マレーシア, インドネシア, タイ

D) 輸出競争力指数はプラス値, 結合度残差はマイナス値の領域

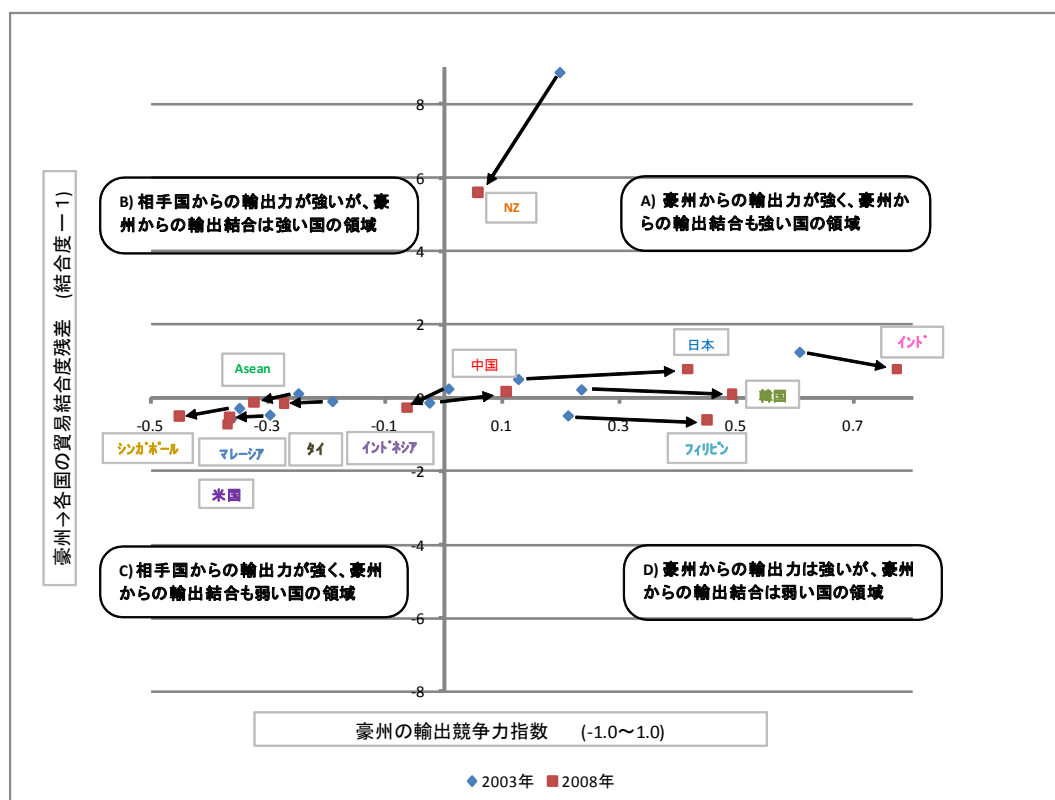
- オーストラリアからの輸出力は強いが, オーストラリアからの輸出結合は弱い国の領域
- フィリピン

A領域の国別の動向を見ると, 日本, 韓国, インドについてはオーストラリアの輸出競争力は2003年に比して2008年に大幅に強化されている一方, 結合度残差の変化はあまり見られず, オーストラリアにとって, 輸出強化するが輸出先はマルチの国を相手に輸出しようとする輸出戦略が読み取れる。

また, C領域の国別の動向を見ると, 米国以外は, 2008年の方がASEANに対するオーストラリアの輸出競争力が落ちてきており, ASEANからの輸入力が強くなっていると読み取れる。

なお, 中国は2003年にはC領域の輸入国に属していたものが, 2008年にはA領域の輸出先として位置づけに変化していることや, ニュージーランドについてはオーストラリアの輸出競争力や結合度が急激に減少している点に注目したい。

以上から推察されることは, オーストラリアの貿易構造として, A領域のようにオーストラリアからの輸出が強くなる国と, C領域のように相手国からの輸入が強くなる国に二極化していくことが示唆される。なお, 農産物についての同様の分析は, 今後の課題としたい。



第 9-52 図 各国別のオーストラリアの輸出競争力指数と輸出結合の動向

第 9-2 表 オーストラリアと各国の貿易結合度の動向

| 相手国名     | 2003年の貿易結合度 |       |       | 2008年の貿易結合度 |       |       | 2008/2003年の増減ポイント |       |       | 結合度から見た相手国タイプ | 結合度の動向 |
|----------|-------------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------------------|-------|-------|---------------|--------|
|          | 豪州→各国       | 各国→豪州 | 結合度残差 | 豪州→各国       | 各国→豪州 | 結合度残差 | 豪州→各国             | 各国→豪州 | 結合度残差 |               |        |
| 米国       | 0.42        | 1.70  | -0.58 | 0.28        | 1.57  | -0.72 | -0.14             | -0.13 | -0.14 | 輸入型           | →      |
| 日本       | 1.49        | 0.75  | 0.49  | 1.78        | 0.72  | 0.78  | 0.29              | -0.03 | 0.29  | 輸出型           | ↗      |
| 中国       | 0.85        | 0.65  | -0.15 | 1.17        | 0.74  | 0.17  | 0.32              | 0.09  | 0.32  | 輸出型           | ↗      |
| 韓国       | 1.21        | 0.56  | 0.21  | 1.10        | 0.48  | 0.10  | -0.11             | -0.08 | -0.11 | 輸出型           | →      |
| アセアン     | 1.10        | 1.38  | 0.10  | 0.87        | 1.75  | -0.13 | -0.23             | 0.37  | -0.23 | 相互依存型         | ↘      |
| インド      | 2.23        | 0.54  | 1.23  | 1.78        | 0.47  | 0.78  | -0.45             | -0.07 | -0.45 | 輸出型           | ↘      |
| ニュージーランド | 9.85        | 7.08  | 8.85  | 6.60        | 7.10  | 5.60  | -3.25             | 0.02  | -3.25 | 相互依存型         | ↘      |
| インドネシア   | 1.23        | 1.00  | 0.23  | 0.73        | 0.88  | -0.27 | -0.50             | -0.12 | -0.50 | 相互依存型         | ↘      |
| マレーシア    | 0.52        | 0.94  | -0.48 | 0.47        | 1.12  | -0.53 | -0.05             | 0.18  | -0.05 | 輸入型           | ↗      |
| フィリピン    | 0.50        | 0.41  | -0.50 | 0.41        | 0.32  | -0.59 | -0.09             | -0.09 | -0.09 | 相互希薄型         | →      |
| シンガポール   | 0.70        | 1.14  | -0.30 | 0.51        | 1.37  | -0.49 | -0.19             | 0.23  | -0.19 | 輸入型           | ↗      |
| タイ       | 0.89        | 0.98  | -0.11 | 0.85        | 1.72  | -0.15 | -0.04             | 0.74  | -0.04 | 輸入型           | ↗      |

World Trade Atlasデータに基づく河原昌一郎作成資料より抜粋

結合度(豪州→各国)=(豪州の輸出総額に対する相手国への輸出シェア)/(相手国輸入総額に占める豪州からの輸入シェア)

結合度(各国→豪州)=(各国の輸出総額に対する豪州への輸出シェア)/(豪州輸入総額に占める各国からの輸入シェア)

結合度残差=結合度(豪州→各国) - 1

第 9-3 表 各国とオーストラリアの輸出競争力指数の動向

単位:100万ドル

| 相手国名     | 2003年の豪州の輸出競争力指数 |        |       | 2008年の豪州の輸出競争力指数 |        |       | 2008/2003年の増減(差) |        |       | 輸出競争力から見た相手国分類 | 輸出競争力の動向 |
|----------|------------------|--------|-------|------------------|--------|-------|------------------|--------|-------|----------------|----------|
|          | 輸出額              | 輸入額    | 輸出競争力 | 輸出額              | 輸入額    | 輸出競争力 | 輸出額              | 輸入額    | 輸出競争力 |                |          |
| 米国       | 6,117            | 13,087 | -0.36 | 10,208           | 22,218 | -0.37 | 4,091            | 9,131  | -0.01 | 輸入型            | →        |
| 日本       | 12,800           | 9,922  | 0.13  | 41,925           | 17,287 | 0.42  | 29,125           | 7,365  | 0.29  | 輸外型            | ↗        |
| 中国       | 5,959            | 6,265  | -0.03 | 27,494           | 22,244 | 0.11  | 21,535           | 15,979 | 0.13  | 相互依存型          | ↗        |
| 韓国       | 5,276            | 3,272  | 0.23  | 15,179           | 5,171  | 0.49  | 9,903            | 1,899  | 0.26  | 輸外型            | ↗        |
| アセアン     | 7,808            | 12,980 | -0.25 | 19,425           | 38,133 | -0.33 | 11,617           | 25,153 | -0.08 | 輸入型            | →        |
| インド      | 2,225            | 544    | 0.61  | 11,303           | 1,451  | 0.77  | 9,078            | 907    | 0.17  | 輸外型            | ↗        |
| ニュージーランド | 5,327            | 3,570  | 0.20  | 7,971            | 7,110  | 0.06  | 2,644            | 3,540  | -0.14 | 相互依存型          | ↘        |
| インドネシア   | 1,819            | 1,791  | 0.01  | 3,616            | 4,110  | -0.06 | 1,797            | 2,319  | -0.07 | 相互依存型          | →        |
| マレーシア    | 1,362            | 2,516  | -0.30 | 3,397            | 7,341  | -0.37 | 2,035            | 4,825  | -0.07 | 輸入型            | →        |
| フィリピン    | 624              | 406    | 0.21  | 1,235            | 470    | 0.45  | 611              | 64     | 0.24  | 輸外型            | ↗        |
| シンガポール   | 2,258            | 4,686  | -0.35 | 5,233            | 13,874 | -0.45 | 2,975            | 9,188  | -0.10 | 輸入型            | ↘        |
| タイ       | 1,469            | 2,161  | -0.19 | 4,556            | 7,987  | -0.27 | 3,087            | 5,826  | -0.08 | 輸入型            | →        |

World Trade Atlasデータより作成

輸出競争力=(相手国への輸出額 - 相手国からの輸入額)/(相手国への輸出額 + 相手国からの輸入額)

#### 4. オーストラリア・ニュージーランド&ASEAN 関連のセンシティブ品目

最後にオーストラリア、ニュージーランドとともに、ASEAN と締結している FTA における関税削減の状況について検討しておく。

オーストラリアは、OECD に加盟している先進国であるが、その輸出は、一次産品（農林水産物、資源・エネルギー）が中心であり、2007 年輸出総額 1,696 億豪ドルのうち、6 割は一次産品である。農産物輸出は、物品輸出の 2 割、サービスも含めた全体輸出額の 1 割を占める。主要輸出品は石炭、鉄鉱石、金、アルミニウム、天然ガス、牛肉、銅鉱石等である。主要輸入品は原油、乗用車、石油製品、コンピューター、医薬品、金、通信機器、貨物自動車等である。

宗主国イギリスとの貿易が盛んであった 1950 年代までは貿易保護主義的な政策がとられたが、その後の 1980 年代頃よりイギリスとの貿易が 2%を切る事態となり、オーストラリアはアジア太平洋の市場との関係強化が不可欠となったため、自由貿易主義を強力に推進する政策に転換した。MFN 関税率は平均で 3.8%，工業製品は高関税の一方、農産物は 1.4%と低く、ケアンズグループの最たる特徴として、農産物関税は世界で最も低い水準にある。

ASEAN とは、2009 年 2 月 14 日に、ASEAN 地域とオーストラリア・ニュージーランド地域という世界で初めての広域圏同士の ASEAN-オーストラリア-ニュージーランド間の FTA 締結が実現している。ASEAN-オーストラリア/ニュージーランド関連品目は、FTA の関税撤廃スケジュールによると、最終目標年の 2020 年には、全ての品目で関税全面撤廃となっているが、比較的高関税率が維持されている品目も存在している。これらの品目はオーストラリアにとっての準センシティブ品目と位置付けられる。主なものは、繊維、衣料品関連のものである（第 9-4 表）。また、ASEAN 全体との FTA とは別に、インドネシア、マレーシア、タイとの間で、乗用車のうち雪上車/ゴルフカー・シリンダー別車種(8703)について、個別に関税撤廃スケジュールの取り決めを行っている。

なお、中国との FTA 交渉において、オーストラリア国内でいくつかの品目について懸念

の声が上がっている。農産物については、2005年 MFN 関税率の高いチーズ(0406 : \$1220/kg), きのこと(0711.0712 : 6.5%), 生鮮野菜(0709 : 5%), 殻付きアーモンド(0802 : 5%), ブドウ・果樹(0806・0813 : 5%), ひまわり油(1512 : 5%), ハムソーセージ類(1612 : 5%)等がリストアップされている。

第9-4表 オーストラリアの準センシティブ品目

| 品目 (HS Code)                      | 輸入関税の削減スケジュール              |
|-----------------------------------|----------------------------|
| ASEAN－オーストラリア－ニュージーランド FTA        | 2009年 →2014年 →2019年 →2020年 |
| ①その他プラスチック製品(3926)                | 17.5% → 15% → 10% → 0%     |
| ②革製品(4015. 4203. 4205)            | 17.5% → 15% → 10% → 0%     |
| ③繊維織物関連(5208. 5209. 5407. )       | 10.0% → 8% → 5% → 0%       |
| ④じゅうたん類(5702. 5703. 5704. 5705. ) | 10.0% → 8% → 5% → 0%       |
| ⑤男女の衣類及び下着類(6101～6217)            | 17.5% → 15% → 10% → 0%     |
| ⑥リネン・カーテン類(6302. 6303)            | 17.5% → 15% → 10% → 0%     |
| インドネシア, マレーシア, タイとの個別協定           | 2009年 →2014年 →2019年 →2020年 |
| ⑦乗用車のうち雪上車/ゴルフカー・シリンダー別車種(8703)   | 5～10% → 0～8% →0～5% → 0%    |

資料：各協定資料より筆者作成